



FRAMEWORK PLAN
FOR GREENERY DESIGN
AND MAINTENANCE

緑のフレームワークプラン

大阪大学 緑のフレームワークプラン - 目次 -

□ はじめに ～位置づけと概要、改訂の背景と方針～	・・・ 1
□ 緑のフレームワークプランの構成	・・・ 2
□ 主要な3キャンパス緑地の広域における位置づけ	・・・ 3
□ 1. 緑のコンセプト	
1-1. 緑のコンセプト	・・・ 4
1-2. キャンパスランドスケープ構築の具体的なイメージ	・・・ 5
1-3. 各キャンパスにおける緑の考え方	・・・ 6
□ 2. 緑の現状分析	
2-1. 豊中キャンパス	・・・ 7
2-2. 吹田キャンパス	・・・ 8
2-3. 箕面キャンパス	・・・ 8
□ 3. 緑のデザインガイドライン	
3-1. 緑のデザインガイドラインの構成	・・・ 9
3-2. 整備のデザインガイドライン	・・・ 10
3-3. 維持管理のデザインガイドライン	・・・ 11
3-4. 保全育成のデザインガイドライン	・・・ 35
□ 4. キャンパスのランドスケープがつなぐ多様な活動	
4-1. キャンパスの使われ方と一体となったランドスケープの考え方	・・・ 36
4-2. 多様な活動の提案	・・・ 37
4-4. 広報との連携やブランディング	・・・ 38
4-5. キャンパスへの愛着の醸成と、基金やPPPとの関係	・・・ 38
□ 5. 緑のリーディングプロジェクト	
5-1. 対象地の現況整理および特徴の抽出	・・・ 39
5-2. 対象地の分類	・・・ 43
5-3. 対象地ごとのイメージ	・・・ 44
□ 6. 今後の課題	
6-1. 活動を回していく組織体制	・・・ 51
6-2. 部局管理方式か、中央（本部）管理式か	・・・ 51
6-3. 環境税（留保金など）の検討	・・・ 51
6-4. 新箕面キャンパスの検討	・・・ 51
□ 資料編	

□ はじめに ～位置づけと概要、改訂の背景と方針～

大阪大学は、全学の一年生が学び緑豊かで大学の歴史が感じられる豊中キャンパス、学部・研究科のほか多くの研究機関や附属病院を要する吹田キャンパス、2007年旧大阪外国語大学との統合による箕面キャンパス、都市型キャンパスとしての新たな発展を検討中である中之島キャンパス（アゴラ）を主要なキャンパスとして擁し、その敷地面積は約160万㎡、建物の床面積は約100万㎡、学生数は23,000人を超える。

大阪大学では、平成16（2004）年の国立大学法人化を機に、全学キャンパスの考え方をまとめたキャンパスマスタープランを作成した。またその後、マスタープランの下位指針として、緑地の維持管理や育成の考え方を示した「緑のフレームワークプラン」を策定しつつ、施設マネジメント委員会が中心となってキャンパス環境の向上に努めてきた。

キャンパスは教育研究の基盤であり、直接の教育研究だけでなく課外活動等、学生教職員による多様な活動の場、リフレッシュを促し交流による相互の刺激を生むコモンスペース、あるいはキャンパスライフの基盤、さらに学生教職員の創造性を最大限にのばすフィールドとして、その重要性は極めて高い（注）。その一方で、国からの運営交付金削減等により、キャンパスを維持し発展させていく活動は困難になりつつある。特に大阪大学のキャンパスには、都市（郊外住宅地）の中の貴重で広大な緑地、といった性格をもつ空間も多く、その維持管理は容易ではない。

施設マネジメント委員会では、平成23（2011）年の緑のフレームワークプランと、その補遺版とも言える「緑の剪定マニュアル」の運用実績をふまえて、下記を目的として、2017年に緑のフレームワークプランの改訂を行うものである。

- (1) 担当者が、本指針を活用することで、より実効的に維持管理できること
（各管理部門における剪定・除草等の発注・検収担当者、施設部の工事担当者など）
- (2) 運営費交付金の減少や、土地活用の活性化の方針に対応していけるものとする
- (3) 大学やキャンパスのブランディングにつなげる
- (4) 学生教職員や周辺地域の方々、企業や卒業生等、多様なステークホルダーに愛着をもっていただき
今までよりも一層緑の育成や維持管理への参画に繋げる

対象とする「緑」とは下記のようなものであり、場所の設えを含めて考える。

- (a) キャンパス内の広場等の植栽（高木、中低木、地被類（芝を含む））
- (b) 街路の並木、中低木、地被類
- (c) 樹林地（竹ヤブ等を含む）や雑草地

「ランドスケープ」とは、一般的にはその土地基盤のあらゆる要素をベースに、景観のありかたをふまえて空間を構築することであるが、本文中ではキャンパスとしての空間、及び使われ方を「ランドスケープ」および「キャンパスランドスケープ」として使用する。

なお箕面キャンパスは2021年春の開学を目指して箕面船場新駅の駅前再開発の一環として、新キャンパス整備・移転計画が進められている。現箕面キャンパス（栗生間谷）は2021年春以降、箕面市の運動公園としての整備されることが検討されており、大学として現箕面キャンパスの緑地整備に力を入れることはできない。一方で新キャンパスは、2017年現在、箕面市の計画とも並行して設計が進められているが、駅前立地の都市型キャンパスであり、豊中や吹田に比べると圧倒的に緑の量がすくない（中之島アゴラの計画も同様である）。これらのことから、本フレームワークプランにおいて現箕面キャンパスと移転後の箕面新キャンパスについては、概略の考え方を述べるにとどめ、今後の新キャンパス計画（維持管理を含めた）の進捗をみて改訂検討を行うものとする。

注 日本学術会議 土木工学・建築学委員会 知的創造と活動を喚起する環境としての大学等キャンパスに関する検討分科会 編
提言「我が国の大学等キャンパスデザインとその整備システムの改善にむけて」、2017.9.

□ 緑のフレームワークプランの構成

- 1 章 キャンパスのあり方、ランドスケープの指針を本章に示すことで、計画、設計のみならず、整備、維持管理にいたるまで一貫したコンセプトを共有する為のものである。
- 2 章 各キャンパスの現状を示す。また、これらを細分化したものを資料編にて併記する。
- 3章 整備と維持管理、保全育成の区別、考え方と、それぞれのデザインガイドラインを示す。維持管理については特に剪定の発注時に注意すべき事柄を示す。
維持管理の担当者に判り易くするため、2012 年には「緑の剪定マニュアル」を作成している。この「緑の剪定マニュアル」を、 本章「デザインガイドライン」に組み込むことで、維持管理や 設計・工事に関わる担当者が方針を理解しやすいものとした。
- 4章 「多様な活動とつながるキャンパスのランドスケープ」として、学生教職員課外活動等による使われ方や、イベント等の プロジェクトとの関係、キャンパスのブランディングや愛着の醸成、寄付・基金やPPP（官民パートナーシップ Public-Private Partnership）との考え方との考え方などを示す。
- 5 章 「リーディングプロジェクト」として実行に移せる諸計画の考え方を示す。
- 6 章 キャンパスランドスケープの発展性、持続性を目的に、各機関との連携、組織や体制の構築について必要となる対策を示す。

□ 主要な3キャンパスの広域における位置づけ

大阪大学の主要な3キャンパスは、主な部分だけでも大阪府北部の吹田、豊中、箕面の3市にまたがる。下図は、豊中市、吹田市、箕面市の緑に関する基本計画等（注）を元に、国の自然環境保全基礎調査、彩都土地利用計画図、地形図を参考にして作成している。各市の計画とも、大阪大学の各キャンパスを、都市における貴重な緑として表現している。

吹田・豊中キャンパスは標高 100m 程度の千里丘陵を挟んで立地している。吹田キャンパスは、万博公園・千里緑地に隣接するみどりの拠点となり、豊中キャンパスは、周囲にまとまった緑地がないことから、地域の貴重なみどりの拠点として貢献している。また、千里丘陵に残された環状緑地は、北摂山系と万博公園、服部緑地を結ぶ生物の生息核となる貴重なみどりの骨格である。

現箕面キャンパスは、2007 年までは大阪外国語大学のキャンパスであった。北摂山系の低山地（標高 500m 前後）の丘陵部（標高 150m 前後）に立地し、山麓景観、市街地に面する緩衝緑地的な機能を有するみどりの拠点となっている。

なお箕面新キャンパスは、2021 年春の開学を目指して箕面船場新駅周辺再開発の一環として、移転整備計画が進められており、駅前立地の都市型キャンパスとなる。

以上をふまえ、生物多様性と持続性に配慮しつつ、3キャンパスそれぞれの個性や役割を考えて、四季の変化や色合いなども勘案しながら、学生・教職員・OB や地域の人々にとって、シンボルとなる憩いの場、集いの場、教育の場としての緑地空間の形成を図るものとする。



キャンパスを取り巻く水と緑のネットワーク

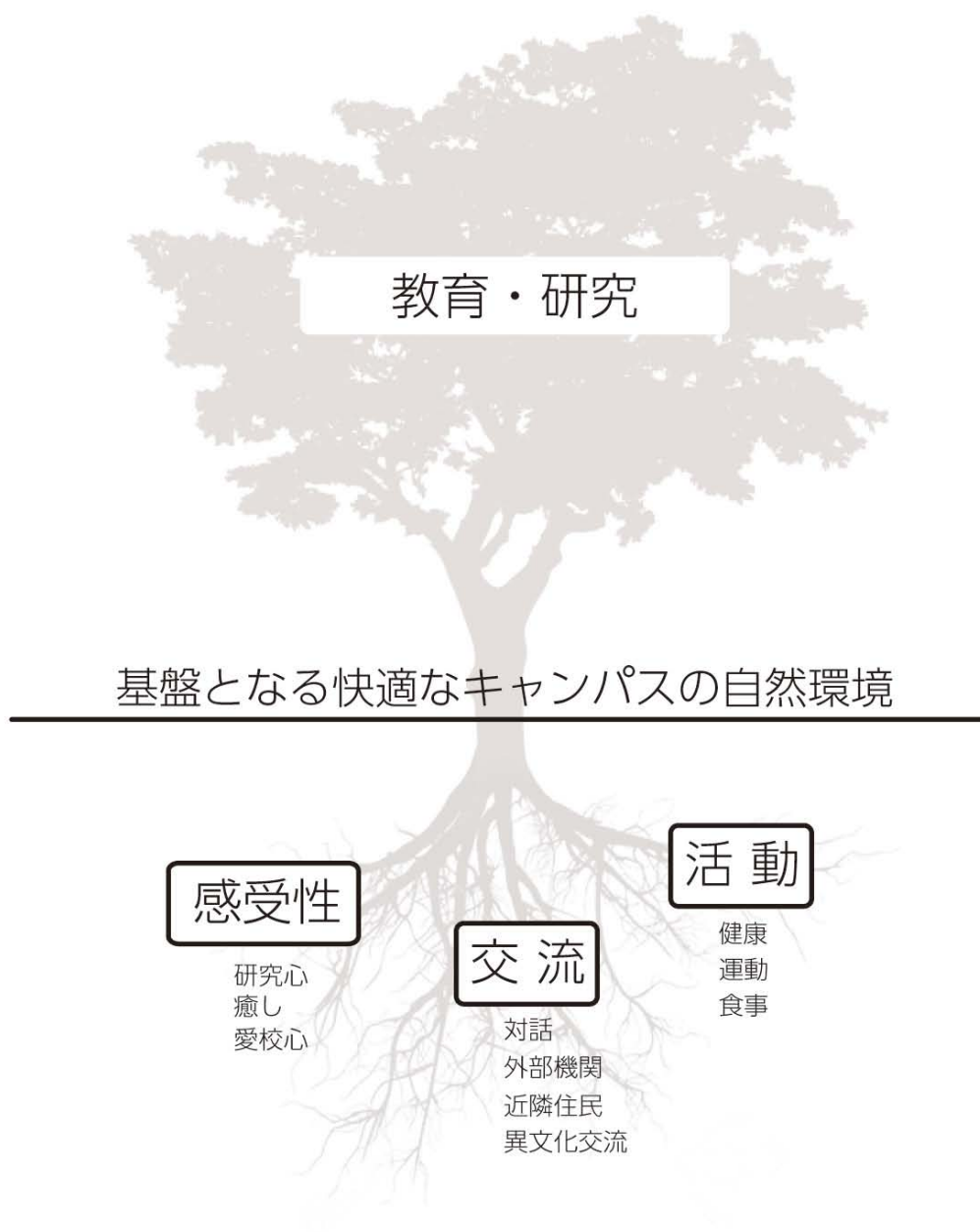
注 豊中市「豊中市みどりの基本計画」、吹田市「いきいき吹田みどりの基本計画」、箕面市「箕面市森林整備計画、H22 年」「箕面市みどりの基本計画（見直し中）」、大阪府「みどりの大阪推進計画、H21 年」、環境省「第2回自然環境保全基礎調査、昭和 56 年（箕面市）」による。

□ 1. 緑のコンセプト

1-1. 緑のコンセプト

豊かな自然、活発な交流、ならびに健全な活動を実現する屋外空間を、教育と研究の源泉として整備する。

緑・自然・環境への働きかけとそこから得られる感受性が教育環境の発展にとって重要だと考える。



- キャンパスランドスケープ構築の相関図 -

1-2. キャンパスランドスケープ構築の具体的なイメージ

基盤となる快適なキャンパスの自然環境は様々なアクティビティ、プログラム、ハードでの仕掛けが一体となることで構築される。



五感で感じ取ること

- ・四季
- ・風・香り・色彩

- ・研究成果のショーケース
- ・アートフィールド



- ・食事 / 休憩
- ・ウォーキング / ジョギング

キャンパス
ランドスケープの
構築

- ・イベント
- ・果樹の栽培、収穫
- ・芝刈り隊

- ・ワークショップ
- ・協働
- ・屋外カフェ
- ・マルシェ

様々な人との交流



心と体を動かす働きかけ

- ・アスレチック
- ・球技



1-3. 各キャンパスにおける緑の考え方

・豊中キャンパスの特性

豊中キャンパスには千里丘陵の一部である待兼山や敷地境界沿いの緑、中山池に代表される、面としてまとまったボリュームの自然が確保されている。かつての里山の植生、美しい竹林、イチョウ並木など秀でた要素が目立つ。



・吹田キャンパスの特性

歴史ある広大な面積に多数の建築と豊かな自然環境がのこる。オープンスペースが数多く、アクティビティや交流が顕在化されており、それらを有益に活用しうるネットワーク化が望まれる。



・現箕面キャンパスの特性

2021 年以降、運動公園として整備予定。残された自然環境を可能な限り継承することとされている。



・新箕面キャンパスの特性

2021 箕面市船場東地区に、都市型キャンパスの新しいあり方を示すこととなる。

□ 2. 緑の現状分析

2-1. 豊中キャンパス

豊中キャンパスは、待兼山のほか、敷地の境界近辺にクヌギ、コナラ、アカマツなどの里山の樹木が残り、全体的に植生が豊かである。しかし待兼山は、遊歩道以外の樹木は伐採されることがないので、ほぼ遷移は極相に達し林床が暗くなり、山全体の生物種の多様性は減少する傾向にある。

一方で、50 周年記念庭園に代表される庭園は大変美しく整備されているものの、鑑賞するための庭園の性格が強く、人が中に入ってくつろぐようには作られていない。

また、充分草刈りが行われていない柴原口のような部分もあり、緑地の保全を図ることと同時に、これらの維持管理の段階・性格付けを明確にして、維持管理の効率化と良好な景観形成を、キャンパス全体の中でバランスをとってゆく必要がある。(以上、キャンパスマスタープラン 2005 年版より抜粋)

豊中キャンパスは全般に、剪定や間引きの行き届いていない過密な緑地が多い。また、ササやタケに侵食されて、生物の多様性を失いつつある部分もある。全体として密度を減らしながら、風や視線の通りがよい空間を形成してゆく必要がある。

中山池のようなため池は、外来生物の侵入により、かつてのような生物の多様性が失われているが、今後、枯れ葉など有機物も含めた水辺の循環を確立することが理想である。これらの池では、日本固有の植生に合った水生植物等を植えながら、アカミミガメやブラックバス、ブルーギルのような外来の動物とともに、外来植物が人の手によって侵入することを防ぐ必要がある。

特徴的なイチヨウ並木の黄色や、サクラなどの色合いを大切にしながら、これら水生植物や、一年草なども取り入れて、季節感や色合いがより豊かなキャンパスをめざしてゆく。

なお大阪大学会館の南側周辺には、絶滅危惧種イヌノフグリをはじめ、その他カンサイタンポポ、ミヤコグサ、ナヨクサフジ、キランソウ、ノアザミ、ジシバリ、オニタビラコ、エリマキツチグリなどの、日本古来の里山にゆかりの深い植物が見られる(注)。しかしこれらは東側や南側から徐々に、土壌攪乱や種子飛来によって、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、セイヨウタンポポ、アメリカオニアザミなどの外来種に侵食されつつある。

直接的な工事はもちろん、周辺工事によって踏み荒らされるだけでも、これらの植物は危機に瀕する。今後は継続的に観察しながら、土壌攪乱を最小限に止めるよう見守っていく必要がある。



美しいが閉鎖的な緑地（豊中キャンパス）



日本古来のかたちに近い植生を残す
大学会館南側周辺（豊中キャンパス）



大阪大学会館南側に自生するイヌノフグリ

注 福井希一、栗原佐智子編著：キャンパスに咲く花阪大豊中編、大阪大学出版会、2009.3

2.2. 吹田キャンパス

吹田キャンパスは広大である。全体の骨格としてはマスタープランに掲げられているとおり、キャンパス内での緑の量と質のバランスに鑑みて、広域の緑との「生態回廊としての連続性」に配慮したものとする必要がある。その中で、豊中キャンパスと同様に、ササやタケの侵食をできるだけ限定的な範囲にとどめて行かなければならない（意匠上、部分限定的にササやタケを植栽として用いることはありうる）。また、吹田キャンパスはサクラ、ケヤキ、クス、ポプラなどの並木が樹木のトンネルを構成し、それぞれの街路景観の重要な要素となっている部分が多い。これらを維持・保全しながら、これらと調和するような植栽の整備改善や、育成整理を考えてゆくことが重要である。



ケヤキの美しい並木（吹田キャンパス）



並木と調和がとれた開放的な緑地
（吹田キャンパス）

なお、除草によって夏以降に開花する植物（生物工学国際交際交流センター協のツリガネニンジンなど）もあるので、今後吹田キャンパスに限らずこのような保護すべき植物を特定しながら、それらの開花時期に配慮して除草時期を調整することが望ましい。

2.3. 箕面キャンパス

箕面キャンパスの外周部は、北摂山系の山麓部でアカマツを主体とする植生であった。わずかに残る自生植物を見るだけでも、かつてこの土地がいかに豊かな自然林であったか想像に難くない。吹田にも豊中にも見られない植物が観察できる。彩都の開発とともに周辺の自然が大幅に失われており、これらは貴重な財産である。



広域としてみると、特に、みどりの骨格（河川・景観・道路軸）に沿った自然回復が必要である。北摂山系の中心部の明治の森箕面国定公園（963ha）はスギ・ヒノキ植林を主とし、箕面川の谷筋にコジイ自然林が分布。その他はアカメガシワ、アカマツ等の二次植生が大部分を占める。



北摂山系の雄大な景観とグラウンドを中心とした緑（箕面キャンパス）

北摂山系やそこから連続する山麓部は生物の生息空間となっており、鳥類は中心部ではクマタカが生息し、その他オオタカ、ハチクマ、ハイタカ、トビや、溪流性のチョウサギ、オシドリ、アカハジロ、コアジサシ、等が見られる。昆虫では、希少種のオオムラサキ、特定昆虫のオオギキブリ、エゾハサミムシ、クチキコウロギ、マヤサンオサムシ、等が確認されている（注）。

なお、市街地に面する丘陵部の樹林は「やまなみ景観保全地区」に指定されている。箕面キャンパスは、大阪平野を見渡せる位置にあると同時に、これら北側の山麓部が借景となって、グラウンド周囲の緑と一体的な、雄大な景観を持っている。特に秋には見事な紅葉が見られる。

注 環境省：緑の国勢調査（第2回自然環境保全基礎調査）、1981（昭和56）年

□ 3. 緑のデザインガイドライン

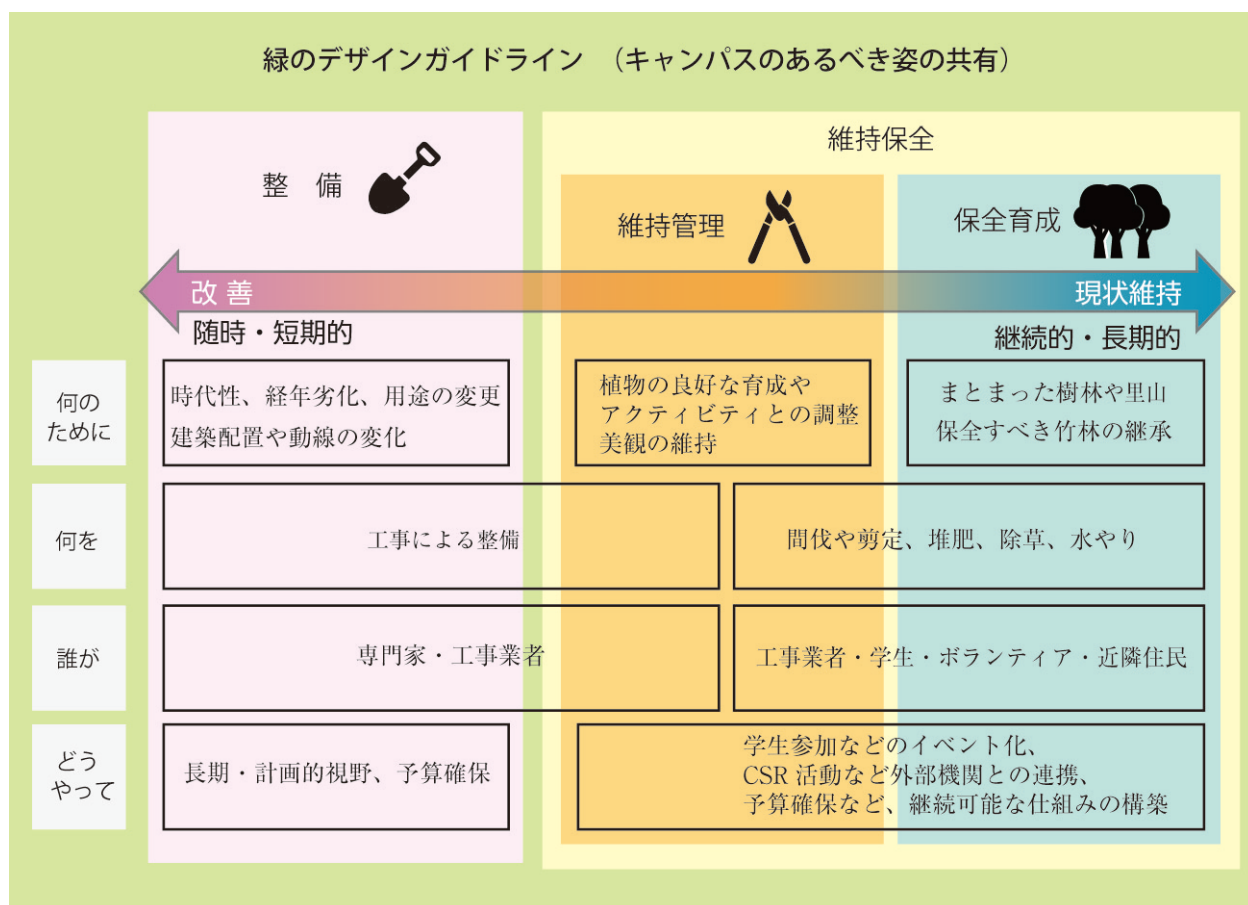
3-1. 緑のデザインガイドラインの構成

(1) 緑のデザインガイドラインとは

緑の整備や緑のみにかかわらず付帯する舗装、休憩施設なども含め、維持管理に関わる担当職員等に基礎的な知識と関心を持ってもらう、また整備や剪定等発注対象の事業者、仕様書よりも判りやすい作業イメージを持っていただくことで、単なる入札では「安かろう悪かろう」にならない緑の維持管理の質的向上を目指すためのものである。

(2) 緑のデザインガイドラインの構成

- ・緑のデザインガイドラインは大きく「整備」と「維持保全」に分かれる。
- ・維持保全はさらに「維持管理」と「保全育成」に分かれる。
- ・それらの相互関係は以下に示される。



- 緑のデザインガイドラインの相関図 -

3-2. 整備のデザインガイドライン

整備とは、建築配置や動線の変化などの時勢の要望に対応する必要がある場所、または特に問題がある部分などに対し、ガイドラインを参考に新たに植栽を施したり地形や配置の大幅な変更を、建物整備に付随する外構工事などで行うものである。



3-3. 維持管理のデザインガイドライン

各部局にて剪定などの緑の維持管理業務の発注を行う際に、方針検討、概算、発注、受注事業者打合せ、立会・指導、検収等にあって、「全体共通事項」と、該当する「樹種や街路ごとの例」をワンセットとして、下記のような場面で使って頂きたい。

(a) 剪定等の方針、概算等の検討時

- ・見積り徴収にあたって、発注範囲、作業方針検討の参考にする。
- ・見積り徴収時の参考資料として添付する。

(b) 受注業者さんとの作業事前打合せ・作業立会い・指導時

- ・マニュアルの解釈等を、事前打合せ時に受注事業者と大まかに摺合せをしておく。

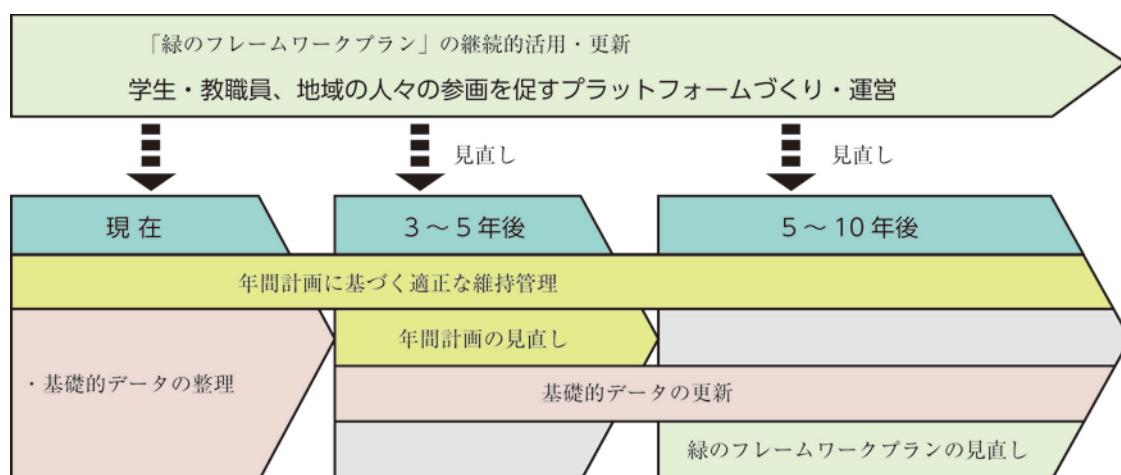
(c) 検収時

- ・作業事前摺合せに基づき、実際にそのように作業が実施されたかを確認する。

維持管理とは、美観をそのままに現状の機能を適宜アクティビティに合わせていくために簡易な整備をおこなったり、緑が健全に成長するよう管理することであるが、現状ではキャンパス全体の維持管理はバランスが取れているとはいいいにくい。

キャンパスの緑を心地良い状態に保ち、印象に残る風景を創出し、快適に維持するためには、それ相応の維持管理が必要である。樹木は、我々がその特性を知り、日常的に愛情を注ぎ、適度に整姿剪定することでみごとな姿を持続してくれる。このためには、将来を見越したデザインガイドラインや状況変化に対応した見直しが不可欠となる。

本学のキャンパスにおいても、緑地の位置づけや植物の特性を十分把握し、樹木、樹林等のそれぞれのライフサイクルに沿った3～5年、10年後の自然生育樹形を基準とする将来像を想定し、定期的な維持管理を行うものとする。



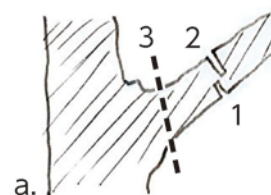
特に、学生教職員や卒業生あるいは地域の人々が、維持管理に容易に参画できるプラットフォームを構築し、運営することで、みんなに愛されるキャンパスづくりを推進する。このような仕組みを活かして、樹木や多年草に限らず、一年草の草花を積極的に取り入れ、キャンパスに今以上の季節感や、華やかな色合いと活気をもたらしことをめざす。

○ 樹木の維持管理（剪定）にあたっての注意点・大方針（参考図・全体共通事項）

高木剪定の大きな分類と方針

ア. 枝抜き剪定

- a. 枝おろし（主枝を幹の付け根付近から切る）
※ 腐るのを防ぐため、枝直径の2倍ほど上で切る。
- b. 大透かし
（太い枝を、主枝からの分枝部から切ってすかす）
- c. 中透かし（枝の中間部分の副主枝を間引く）
※ 中透かしで、小さい枝の側・外に広がらない枝を残して軸側を切り樹形をコンパクトに保つことができる。



主に
用いる

イ. 切返し剪定（枝抜き剪定と併用）

目標とする樹冠より長い枝を、芽の上で切って、長く伸びた枝を短い枝に切り替える剪定。

※ あまり太い枝でこれを行うと、下記の切詰め剪定と同様のことになり樹形を乱すので注意が必要。



ウ. 切詰め剪定

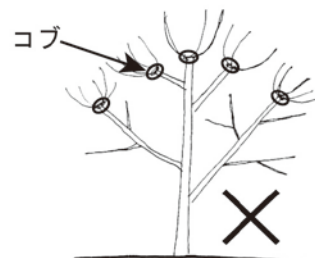
- ・車両や歩行者の通行障害、大学敷地境界外への悪影響の対策など、やむを得ない場合以外には行わない。
- ・切詰め剪定をする場合でも、明確な目標樹形が無い限り樹木全体を切詰めしない。
- ・切詰め剪定をする場合は、翌年の萌芽枝整理による整枝剪定を予定した上で行う。
- ・樹木まるごと切詰め剪定する場合は、意図および目標樹形と翌年の整枝剪定の予定を記した告知表示を設置することが望まれる。（意図がわからない人には、ひどい剪定に見える）

なるべく
避ける

※ 切詰め剪定（ずんどう切り・ブツ切り）はできるだけ行わない！



こうになってしまう

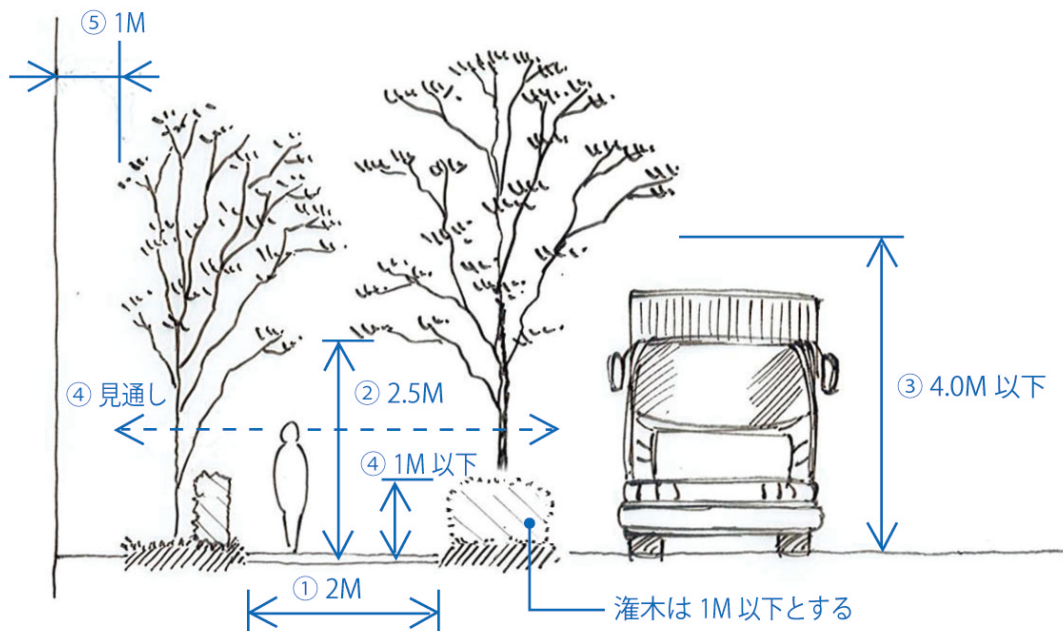


翌年から枝があばれ、余計にジャマで、かつ不細工な枝ぶりとなる。
特に同じ位置で何度も切ると、コブだらけの痛々しい姿となる。

※ シンボル樹や、まとまった範囲に対して切詰め剪定をする場合等、不明な点はサステイナブルキャンパスオフィス キャンパスデザイン部門（窓口：施設部企画課）まで相談のこと。

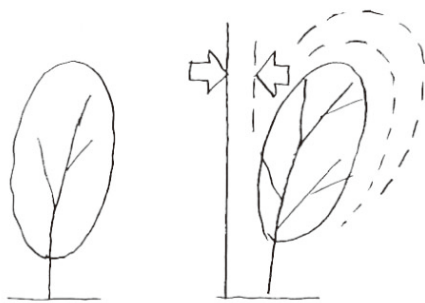
歩道や車道の有効幅などの関係

- ① 歩道の有効幅を 2m確保する（目標）。
- ② 歩道の枝下高さを 2.5m確保する。
- ③ 大型車両が通行する部分では、枝下高さを、約 4.0m確保する。
- ④ 歩車道境界の低木等は、高さを出来るだけ以下におさえ（1.0m程度以下が望ましい）、視界を確保する。また、建物側に生垣状の中低木がある場合も、防犯の観点から出来るだけ、見通しが効くように剪定する。
- ⑤ 建物との間に 1m程度の間隔をとる。建物の避難器具使用空間や照明などとの干渉に注意する必要がある。



3. 自然な樹形と周辺環境との関係の例

自然な樹形を基本にするが、建物や車道との関係によって、調整してもかまわない。



紡錘形・卵型の樹形 ... イチョウなど

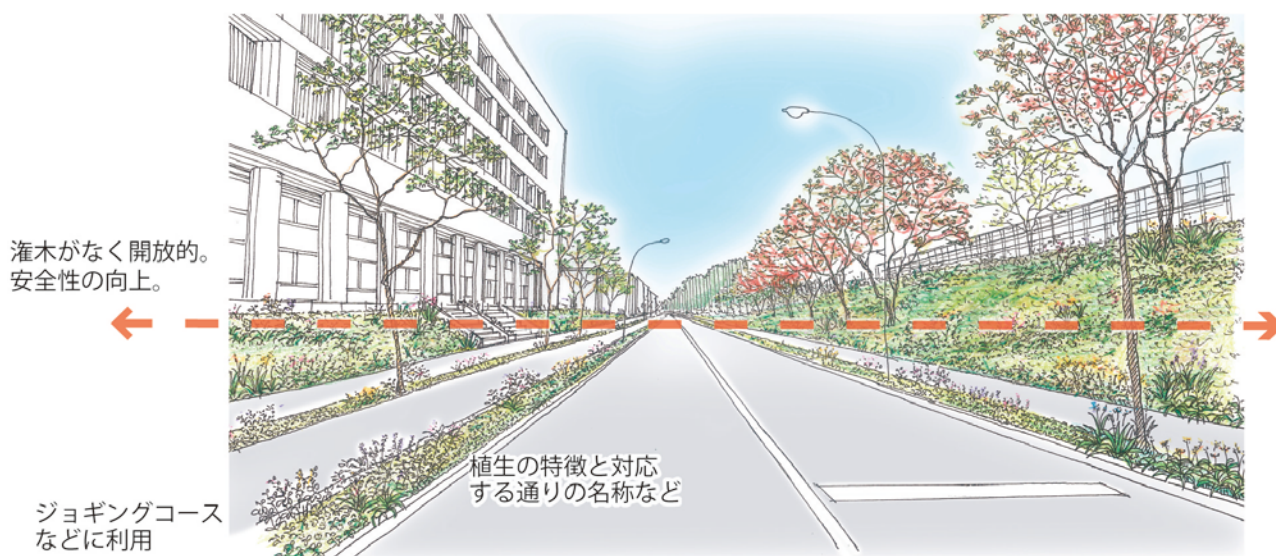
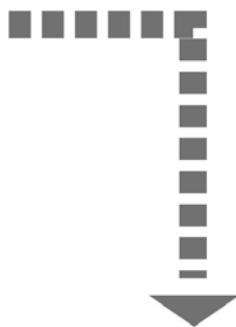


盃形（逆ほうき形）の樹形 ... ケヤキなど

○ メインストリートのガイドライン（幹線道路の目指す整備、利用イメージ）



現況写真



幹線道路の整備、利用イメージ

安全性、機能性に合った緑

- ・見通しのよさ
- ・乱横断の抑止
- ・歩行者優先の意識
- ・維持管理の容易さ
- ・空間にあった植生

多様な使われ方の動機づけ

- ・イベント、歩行者天国の実施
- ・ジョギング、ウォーキング
- ・企業によるネーミングライツ
- ・花植えや芝刈りなど園芸活動

維持管理意識の向上

- ・あるべき姿のイメージ共有
- ・維持管理意識の向上
- ・愛着、愛校心
- ・駐輪の減少



ガイドラインによる利用イメージサイクル

○ うまく剪定・維持管理されている例

a. 見通しが良く、良好な疎林を形成している例



見通しが良くくつろげる広場として維持管理されている。
(吹田地区コンベンションセンター北側)

良好な疎林として維持管理されている。
(吹田地区西門付近)



良好な疎林として管理されている。
(豊中キャンパス柴原口付近)

b. 車両や歩行者の通行に配慮しつつ適切に剪定されている街路樹



のびのびしたケヤキの樹形を生かした良好な管理。
(吹田地区中央通り)



大型車両が通行する街路ながら良好に剪定されている。
(吹田地区東門ゲート付近)



適切な選定が行われている。
(豊中地区口大講東側)



大型車両が通行する街路ながら
良好に剪定されている。
(吹田地区北口通り)

c. シンボル樹やアクセントとなる樹木



箕面キャンパスに特有な、各所のシンボルツリー。良好に管理されている。



擁壁面の緑化。
(箕面キャンパスA棟南側)



大型車両も通り得る街路のため、比較的強く剪定されているが、枝抜きが適切に行われて、樹形を保っている。
(豊中地区文系通り)

○ 剪定等に問題があると考えられる例

a. 街路樹等が切詰め剪定（強剪定・寸胴切り）され、樹勢や樹形を損ねている例



バス通行の支障になるとして切詰め剪定（強剪定）されて枝が暴れ
樹勢の衰弱により胴吹きも生じている。また、毎回同じ位置で切ら
れてコブが生じている。
（豊中地区銀杏通り）



上記と同様の状況にあるシナサワグルミ。
（箕面地区キャンパスループ）



同様に、切詰め剪定で樹形を乱している
ナンキンハゼ（吹田地区さくら環状通り）

b. 繁茂しすぎ（枝抜き剪定不足、間伐不足、低木刈込み不足）で見通し悪く閉鎖的な緑地



浪高庭園や言語文化研究
科北側の樹林地は、樹木
の密度が高すぎる。
病虫害に弱くなり生育に
悪影響があるだけでなく
不審者が潜む恐れがあり
防犯上も良くない。

c. 低木の刈込み不足等



低木が歩道の有効幅員を狭めている
(吹田地区さくら環状通り)。

竹の浸食も、樹林の植生の多様性を減じている。
(吹田地区さくら環状通り)。



低木類は、刈込みが重要となる。
(豊中地区 50 周年記念庭園)

生垣が歩道を圧迫している。(吹田地区北口通り)



○ 樹木の維持管理（剪定）にあたっての注意点（樹種や街路ごとの例）

豊中キャンパス

- ① 銀杏通り
- ② 銀杏通り × 全学教育メインストリート
- ③ 全学教育メインストリート
- ④ 浪高庭園・全学教育メインストリート
- ⑤ 全学教育メインストリート・80周年広場
- ⑥ 50周年記念庭園・阪大坂
- ⑦ 阪大坂
- ⑧ 東口通り
- ⑨ 柴原口通り
- ⑩ 文系通り
- ⑪ 文系中通り
- ⑫ 学生会館通り



吹田キャンパス

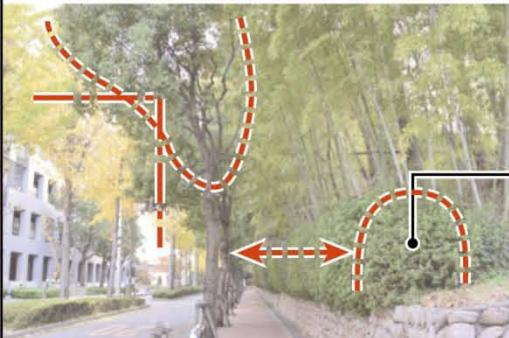
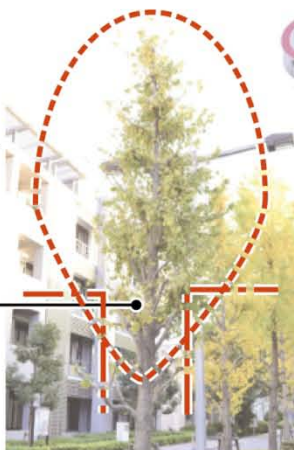
- ① 中央通り（西門付近）
- ② 中央通り
- ③ 中央通り（ホスピタルパーク前）
- ④ ポプラ通り（コンベンション・体育館の北側）
- ⑤ さくら環状通り（千里門付近）
- ⑥ さくら環状通り（蛋白研～産研付近）
- ⑦ さくら環状通り（犬飼池付近）
- ⑧ さくら環状通り（バスロータリー付近）
- ⑨ 北口通り
- ⑩ けやき通り（工学US-1棟南側・テクノアライアンス西・北側）
- ⑪ 小野原口通り
- ⑫ たけのこ通り（歯学部とたけのこ保育園の間）

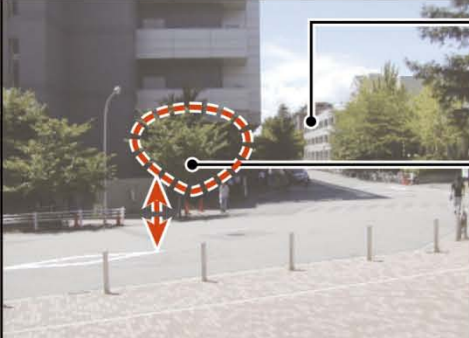
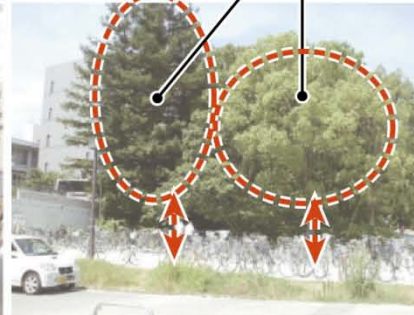
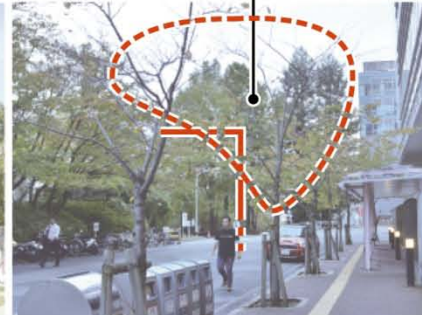


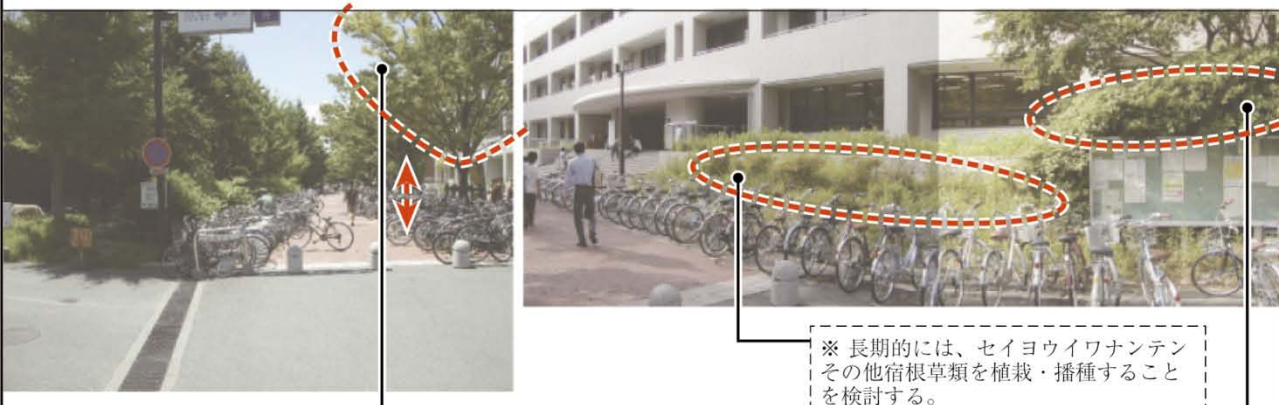
箕面キャンパス 共通。（維持すべき特徴的な緑）

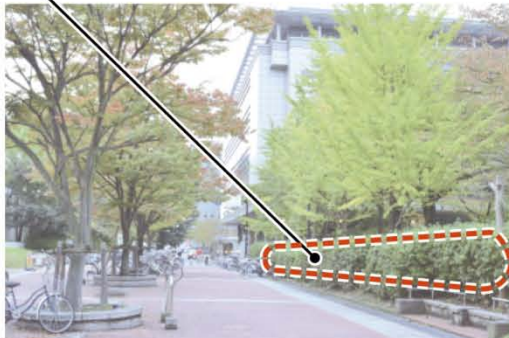
- ① キャンパスループ（西側）
- ② キャンパスループ（北側）
- ③ キャンパスループ（東・講義棟周辺）
- ④ 彩都口通り
- ⑤ 各所の特徴的な緑

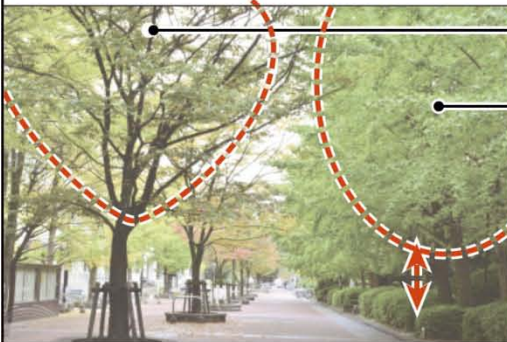
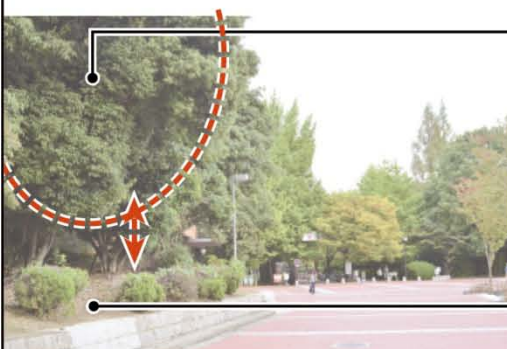


豊中キャンパス 1	街路名 銀杏通り
樹種 イチョウ（卵形）、ツツジ類、イヌツゲ	
 豊中市の景観百選にも選ばれており、枝ぶりに十分注意して剪定する。 刈込みが必要な仕立物は、年に2回程度行うこと。 	
 タケが繁茂し、元のアカマツ林を浸食している。タケを間伐し、その生育範囲を徐々に狭めて、テニスコートより北側に限定する。タケの密度は0.5本/m²を目標として、老竹から切る。年に1～2回程度刈込み、歩道の有効幅を確保する。 イチョウ剪定の良くない例：車両の障害になるため、毎回同じ位置で切詰められている。樹形を崩し、コブもできるので、枝おろし・大透かしで対応する必要がある。 	

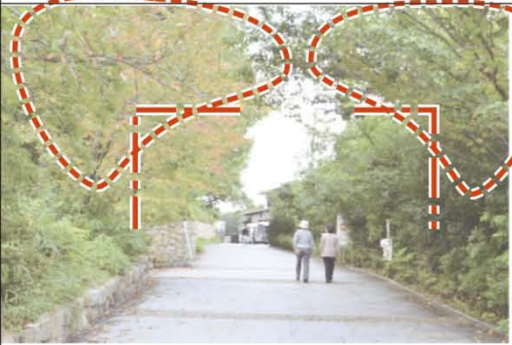
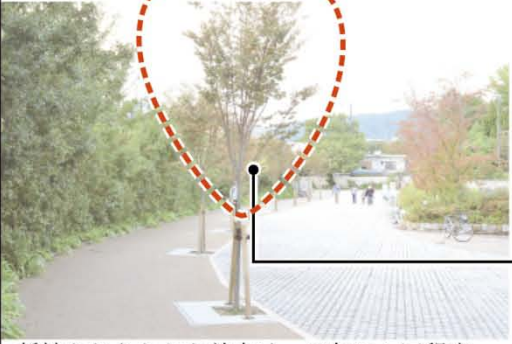
豊中キャンパス 2	街路名 銀杏通り × 全学教育メインストリート
樹種 メタセコイヤ、クス（卵形）、サクラ類、	
 図書館の北側のサクラは、日当たりが悪く生育が良くない。開花前（3月）に胴吹き・ひこばえを付け根から切除し、余計な栄養が小枝に消費されないようにする。それ以上の剪定は、歩道・車両等の障害になる場合を除き、できるだけ行わない。 図書館の東側の樹木は、地上高さ3m程度の範囲の見通しを良くするように、3年に1回程度、枝下ろしを行う。	
セコイヤ類・クスは、地上高さ3m程度の範囲の見通しを良くするように、3年に1回程度、枝下ろしを行う。   	

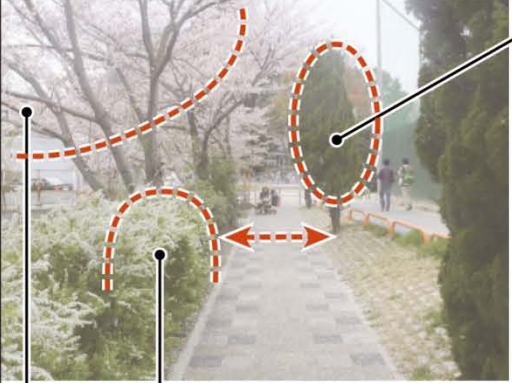
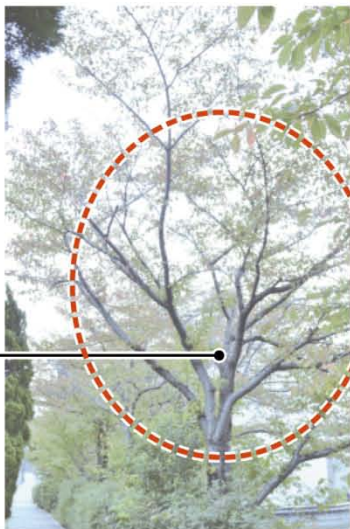
豊中キャンパス 3	街路名 全学教育メインストリート
樹種 ケヤキ（盃形）、ツツジ類	
 中央のケヤキは、日当たりの良い図書館側では2年に1回程度剪定する。大学会館側は、日当たりが悪いので、5年程度ごととする。 ※ 長期的には、セイヨウイワナンテン その他宿根草類を植栽・播種すること を検討する。 掲示板裏のツツジは、掲示板の支障にならない範囲に収まるように、剪定すればよい。	

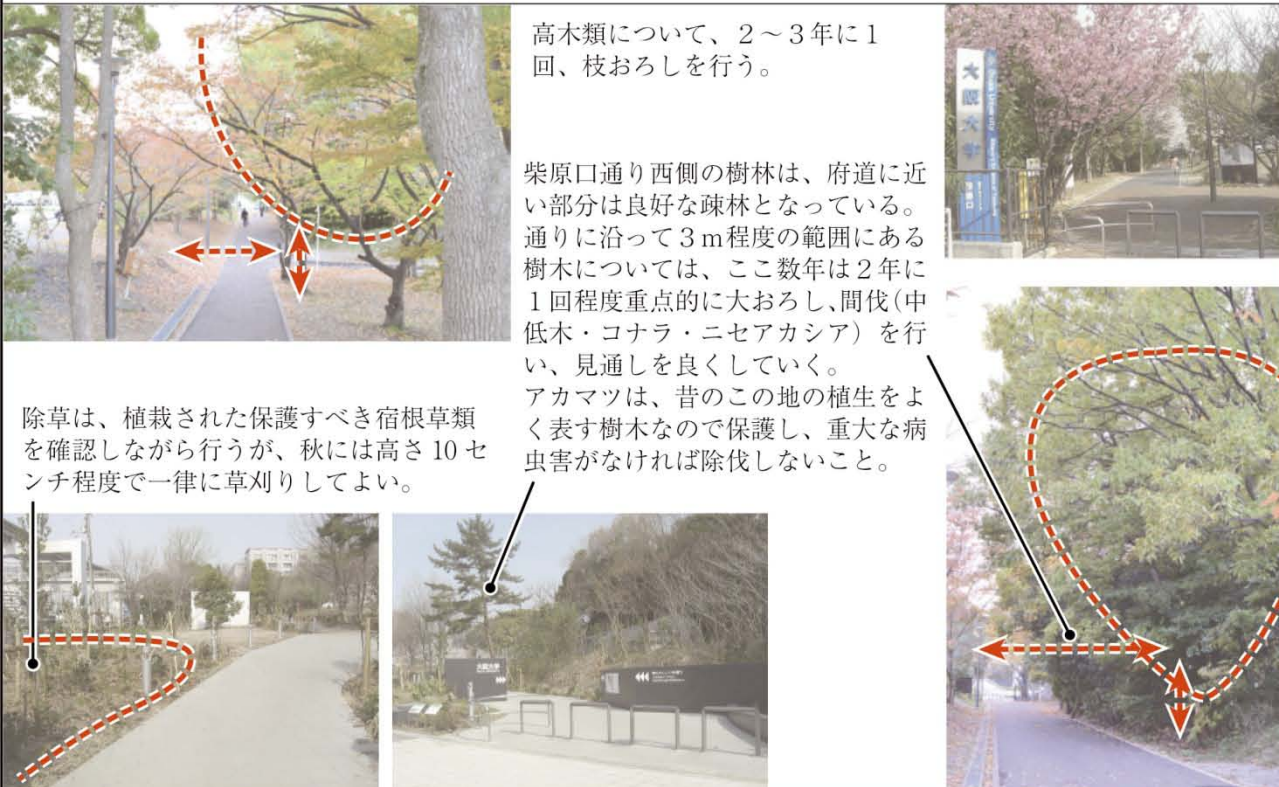
豊中キャンパス 4	街路名 浪高庭園・全学教育メインストリート
樹種 イチョウ、ケヤキ、クス、ツツジ、イヌツゲ	
 浪高庭園は、地上高さ3m以下の見通しを確実に良くし、それ以上の高さについても、庭園全体を明るく保つように剪定する。このため、高木は2年に1回程度、まんべんなく枝下ろしを行う。低木類は、年に1～2回程度剪定して、高さ・幅のボリュームをできるだけ低減する。 ※ 長期的には、地被類を 植栽・播種することを検討する。 ※ 長期的にはツツジ類を減らし、より低く 刈り込みが不要な低木に置き換えて、見通 しの良い、集い憩う庭園にする。  	

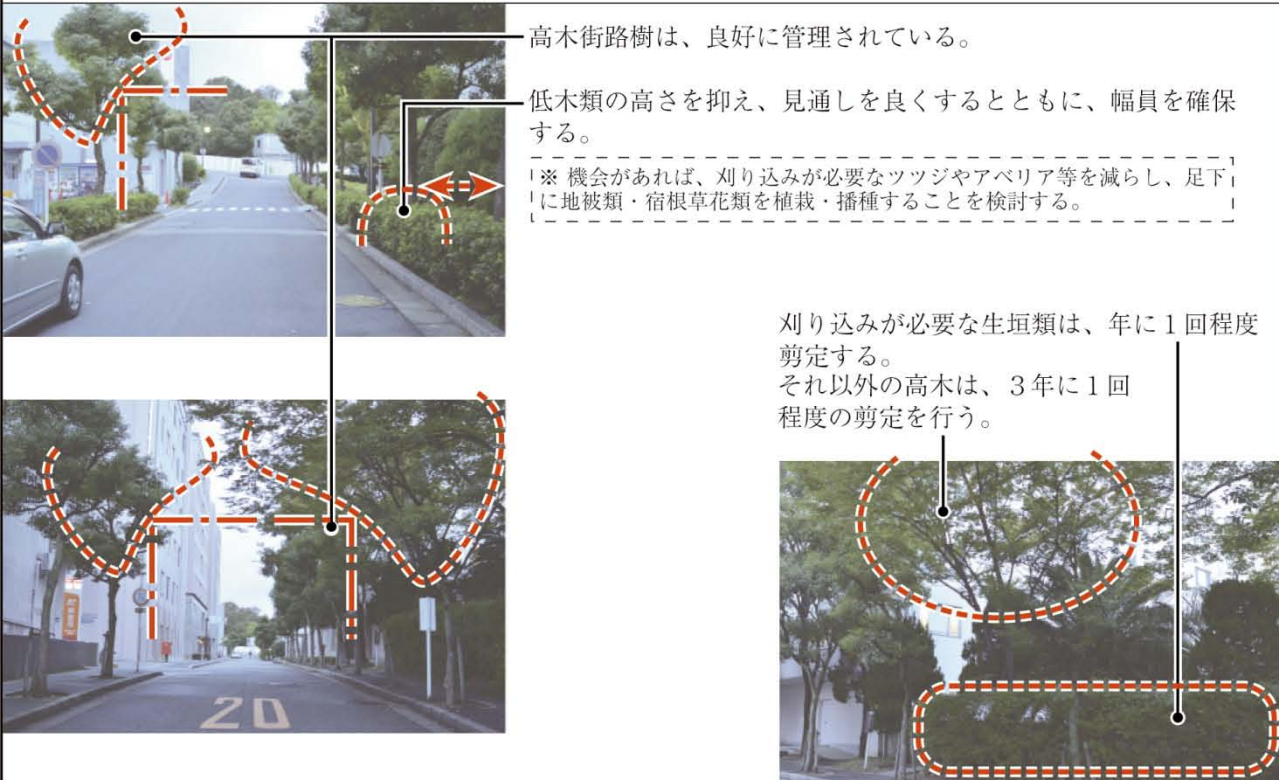
豊中キャンパス 5	街路名	メインストリート・80周年広場	
樹種	ケヤキ（盃形）、イチョウ（卵形）、セイヨウイワナンテン、イヌツゲ、ツツジ類		
		中央のケヤキは、大学会館側は日当たりが悪いので、5年程度ごととする。 メインストリートに日影を作っている言語文化研究科側のイチョウ他の大木は、機会があれば、できるだけ大規模に間伐と大枝下ろしを行い、メインストリートを可能な限り明るくする。枝下高さも2.5～3m確保する。それ以外に3年に1回程度、枝下ろしを行う。	
		3年に1回程度大枝下ろしだけを行う。 枝下高さを2.5～3m程度とし見通し良くする。 ※ 機会があれば、足下に地被類・宿根草花類を植栽・播種することを検討する。	
		80周年広場周辺の新植された樹木は、2年に1回程度整姿剪定し、樹形良く育生する。 	

豊中キャンパス 6	街路名	50周年記念庭園・阪大坂
樹種	ケヤキ（盃形）、サクラほか	
 庭園は、1年に2回程度、全体に刈込みを行い、現在の美観を保つ。 大学会館前の樹林地は、2年に1回程度、枝おろしを行い、道路の幅員を充分確保するとともに、明るさを確保する。 ※ 機会があれば、刈り込みが必要なツツジやイヌツゲ等の低木を減らし、足下に地被類・宿根草花類を植栽・播種することを検討する。		
 待兼山は、毎年、数カ所ずつ間伐枝下ろし、除草を行う。タケとササによる浸食防止に留意するが、間伐と除草にあたっては、事前に保護すべき植生について確認してから行う（参考：大阪大学キャンパスマスタープラン2012年部分改訂版 p.27, 図b.環境学習フィールドとしての待兼山）。 阪大坂と中山池の間の、ケヤキを中心とした樹林は、見通しのよい良好な疎林として管理されている。2年に1回程度枝下ろしを行いこの状態を維持する。		
		

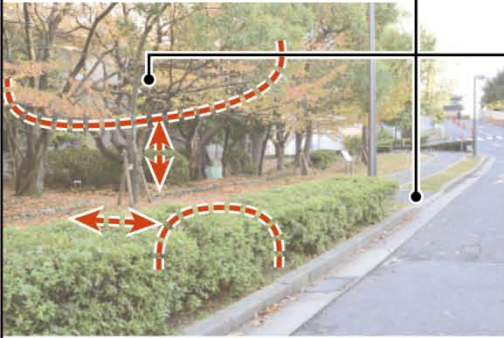
豊中キャンパス 7	街路名 阪大坂
樹種 ケヤキほか多様な樹種	
 隣地境界沿いの樹木は、隣地からの苦情が無いように2年に1回程度剪定するが、その際もぶつ切り剪定ではなく、適切な枝おろし剪定を行うこと。	
	
 待兼山は、毎年、数カ所ずつ間伐、枝下ろし、除草を行う。タケとササによる浸食防止に留意するが、間伐と除草にあたっては、事前に保護すべき植生について確認してから行う。 (参考：大阪大学キャンパスマスタープラン 2012 年部分改訂版 p.27, 図 b. 環境学習フィールドとしての待兼山)	
	
新植されたケヤキ並木は、2年に1回程度整姿剪定し、樹形良く育生する。	

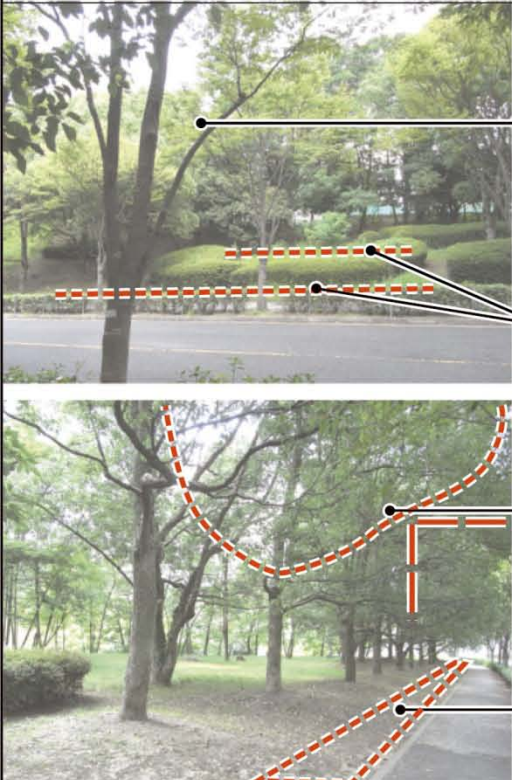
豊中キャンパス 8	街路名 東口通り
樹種 サクラ、カイズカイブキ、ユキヤナギ	
 カイズカイブキは、2年に1回程度刈り込む。この際、通行者が枝で怪我しないように剪定する。切った後の枝が中途半端に残っている場合は、付け根近くで切除する。 (一般にカイズカイブキは、樹形を保つために下の方の枝は切り過ぎない方がよいが、ここでは通行者の安全を優先する)	
ユキヤナギは年に2回程度刈り込む。花が終わった時期がよい。	
 サクラは3年に1回程度中枝下ろし剪定するが、できれば3月頃に、胴吹きやひこばえの小枝は、太くなる前に根本から切除し、養分が小枝に奪われないようにするとともに、太くなってから切らなくてもよいようにする。	

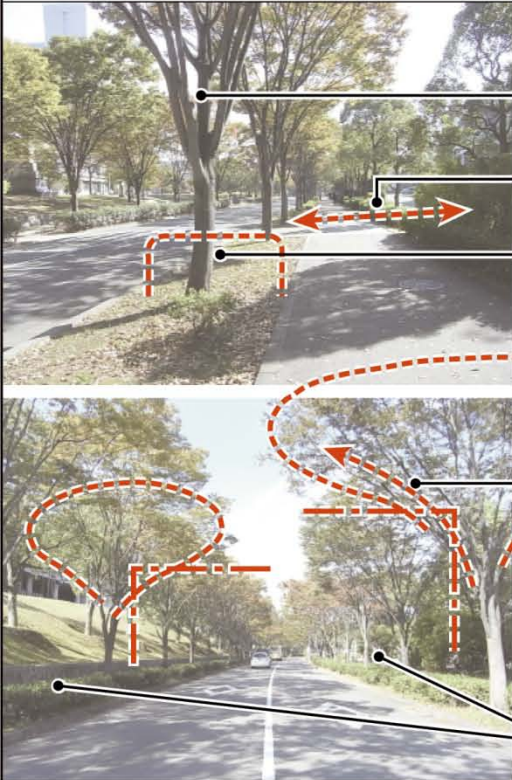
豊中キャンパス 9	街路名 柴原口通り
樹種 サクラ類（卵形）、クス（卵形）、コナラ、アカマツ、多種多様な地被類	
高木類について、2～3年に1回、枝おろしを行う。 柴原口通り西側の樹林は、府道に近い部分は良好な疎林となっている。通りに沿って3m程度の範囲にある樹木については、ここ数年は2年に1回程度重点的に太おろし、間伐（中低木・コナラ・ニセアカシア）を行い、見通しを良くしていく。アカマツは、昔のこの地の植生をよく表す樹木なので保護し、重大な病虫害がなければ除伐しないこと。 除草は、植栽された保護すべき宿根草類を確認しながら行うが、秋には高さ10センチ程度で一律に草刈りしてよい。	
	

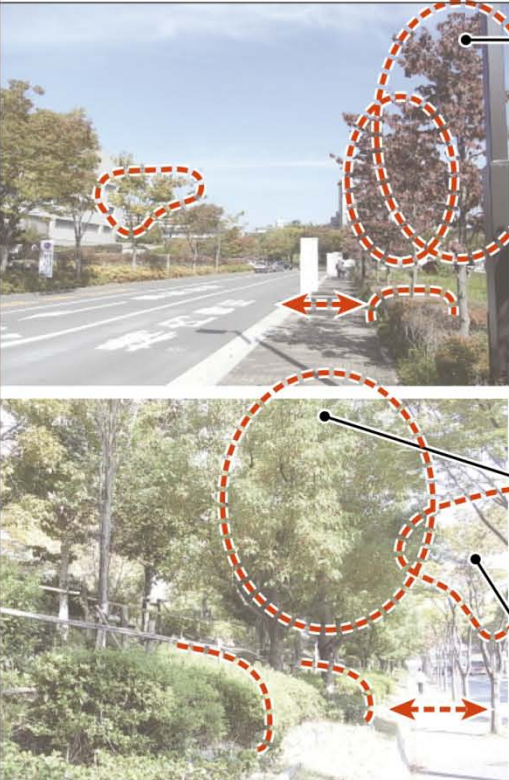
豊中キャンパス 10	街路名 文系通り
樹種 クス、ツツジ、アベリアほか	
高木街路樹は、良好に管理されている。 低木類の高さを抑え、見通しを良くするとともに、幅員を確保する。 ※ 機会があれば、刈り込みが必要なツツジやアベリア等を減らし、足下に地被類・宿根草花類を植栽・播種することを検討する。 刈り込みが必要な生垣類は、年に1回程度剪定する。 それ以外の高木は、3年に1回程度の剪定を行う。	
	

豊中キャンパス 11	街路名 文系中通り
樹種 ハナミズキ、ケヤキほか	
 この街路はキャンパスの中心部近くにあり、見通し良く整備されているので、新たな記念植樹（特に成長が早く大きくなる樹木）は慎重に検討することとする。	
 新植されたハナミズキ等は、2年に1回程度整姿剪定し、樹形良く育生する。	
 宿根花草類の播種・新植・補植は、機会があれば積極的に導入する。	

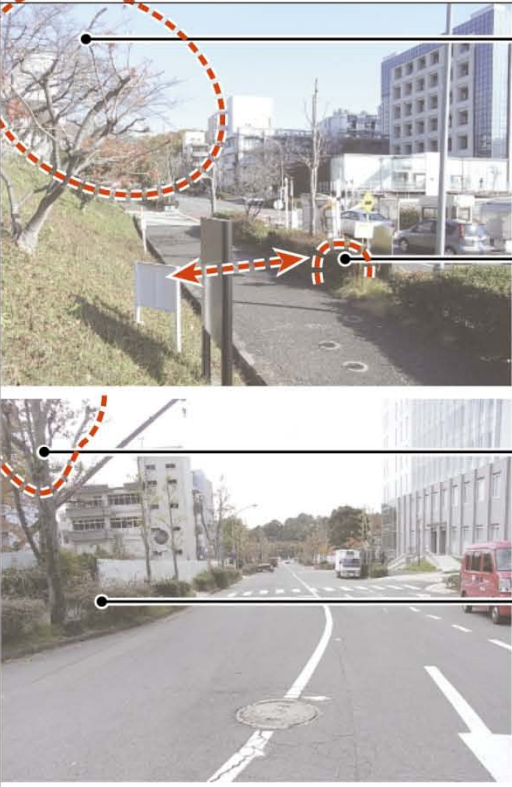
豊中キャンパス 12	街路名 学生会館通り
樹種 サクラ、ツツジ、コナラ、ツバキほか	
 サクラは3年に1回程度中透かし剪定するが、できれば3月頃に、胴吹きやひこばえの小枝は、太くなる前に根本から切除し養分が小枝に奪われないようにするとともに、太くなってから切らなくてもよいようにする。	
その他の高木は、3年に1回程度、中透かしを行う。	
 宿根花草類の播種・新植は、機会があれば積極的に導入する。	
文法経義棟西側の樹林地は、良好な疎林として管理されているが、もう少し密度を減らし、枝下高さを2.5～3m程度まで上げる。3年に1回程度、中枝おろしを行う。	
待兼山会館前庭空間は、良好に管理されているが、樹木密度がやや高く細く高い樹木ばかりなので、生育の悪いものを間伐する。その他、3年に1回程度、枝下ろしを行う。	

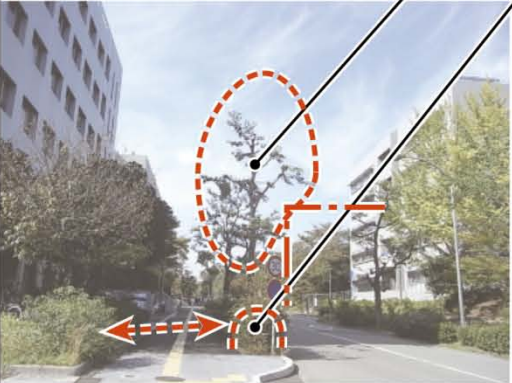
吹田キャンパス 01	街路名 中央通り（西門付近）
樹種 クス（卵形）、ツツジ類、トベラ	
	西門付近は、見通し良い疎林として良好に維持管理されている。現状を保ちながら、低木は年に1回程度刈り込み、高木は2年に1回程度枝おろしを行って、もうすこし明るい街路を目指す。
	見通しを確保するため、歩車道間の低木は高さ50cm程度で切る。奥の低木も、不審者が潜むなどを防ぐため、概ね1m程度未満の高さで切る。
	十分な枝下高さ（約3m）と見通しを、引き続き確保する。
	※ 機会があれば、歩道に沿って幅1m程度、地被類・宿根草花類を植栽・播種することを検討する。

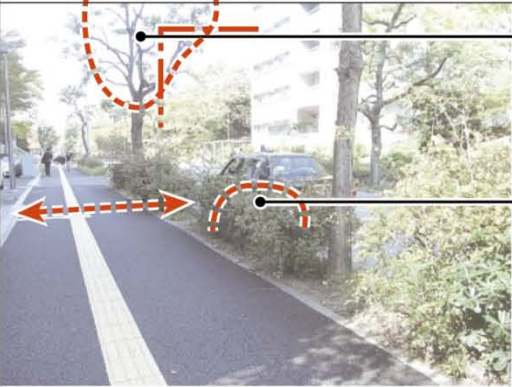
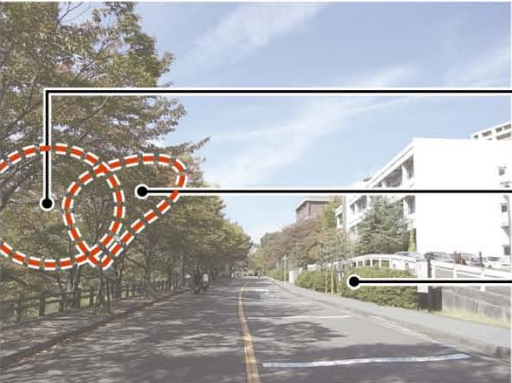
吹田キャンパス 02	街路名 中央通り
樹種 ケヤキ（盃形）、クス（卵形）、ツツジ類	
	充分生育したケヤキは、2年に1回、1～2本程度、枝おろしまたは大透かしを行いながら、自然な盃形を目指す。
	歩道の有効幅員を充分確保するように、中低木を年に1回程度、剪定する。
	低木または地被類・宿根草花の補植（または播種）や育成をはかる。ただし、見通しを確保するため、歩車道間の低木は高さ1m程度で切る。
	大型車両が通行する街路では、車両通行部の幅員と有効高さ約4.5mを確保するように、適宜枝おろし、または大透かしを行う。盃形は左右対称でなくても良く、偏っていてかまわない。
	歩車道境界の低木は、見通しを確保するため、高さ1m程度で切る。

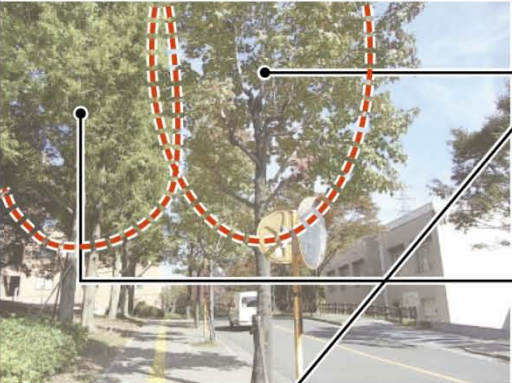
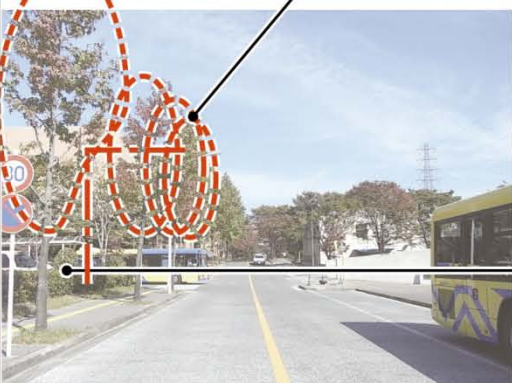
吹田キャンパス 03	街路名 病院前通り
樹種 ハナミズキ（卵形）、ケヤキ（盃形）、クス（卵形）、ツツジ類、セイヨウイワナンテン等	
 卵形の樹形を活かしつつ、車両通行の障害になる可能性がある、または歩道上の有効高さ2.5m以下に出てくる枝は、2～3年に1回1本程度ずつ、幹の近くで切る。 街路全体としては、良好に維持管理されている。 歩行者または車両の障害にならないようであれば、大透かし程度を2～3年に1回程度行うのみとする。 生育が十分ではないが、車両通行範囲にかかる場合は、適宜枝おろしをする。切り詰め剪定（ぶつ切り）せず、できるだけ幹や大枝の付け根付近で切ること。 	

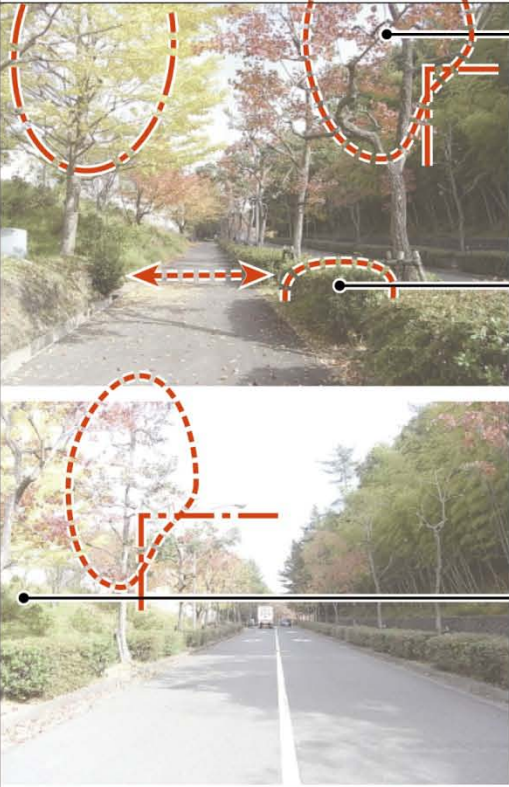
吹田キャンパス 04	街路名 ポプラ通り
樹種 ケヤキ（盃形）、ツツジ類、ポプラ、モウソウチク（タケ）	
 歩道の有効幅員を充分確保するように、中低木を年に1回程度、剪定する。 大型車両が通行する街路では、車両通行部の幅員と有効高さ約4.5mを確保するように、適宜枝おろし、または大透かしを行う。盃形は左右対称でなくても良く、偏っていてもかまわない。 充分生育しているクスは、2年に1回、1～2本程度、枝おろし、または大透かしを行いながら、自然な卵形を目指す。	

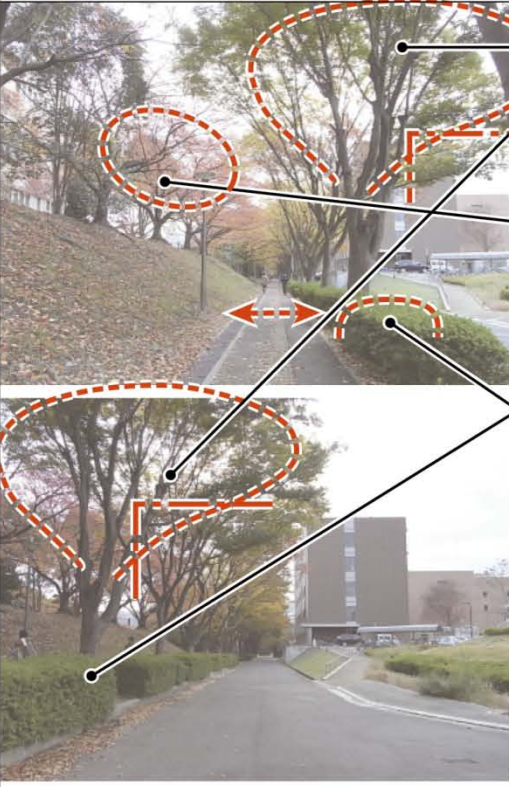
吹田キャンパス 05	街路名 さくら環状通り（千里門付近）
樹種 ナンキンハゼ、ツツジ、トベラ、アベリア	
	サクラ類は、ひこばえやからみ枝等、特に低い部分の余計な枝を細いうちに伐っておき、できるだけ太い枝を後で切らずにすむようにしておく。 斜面の木は、自然樹形も斜面なりとなる。
	見通しを確保するため、歩車道間の低木は高さ1m程度で切る。また歩道の有効幅員をできるだけ広く確保するよう切る。
	ナンキンハゼは、車両や歩行者の障害になりうる枝を、2～3年に一度枝おろし・大透かしするだけで、極力切詰め剪定を行わない。
	コーナー部は、特に見通しに配慮し、高さ50cm以下に切り詰める。<u>機会があれば、地被類・宿根草花類への転換も検討する。</u>

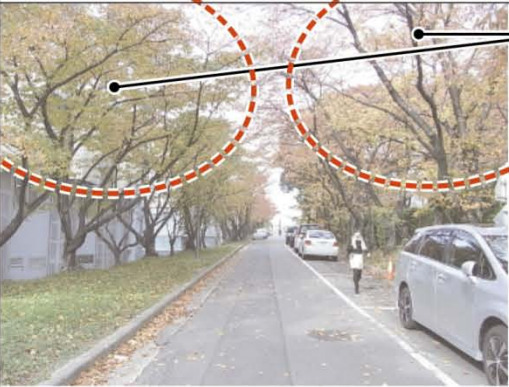
吹田キャンパス 06	街路名 さくら環状通り
樹種 ナンキンハゼ（卵形）、ソメイヨシノ（卵形）、アベリア類	
	サクラ類は、特に花期前の3月、ひこばえや胴吹き等、特に低い部分の余計な枝を細いうちに伐っておき、できるだけ太くなってから切らずにすむようにしておく。 斜面の木は、自然樹形も斜面なりとなる。
	ナンキンハゼは、車両や歩行者の障害になりうる枝を、2～3年に一度枝おろし・大透かしするだけで、極力切詰め剪定を行わない。
	アベリア類は枝があげられるので、年に1～2回程度の剪定が望ましい。歩車道境界や防犯上の配慮が必要な部分では、見通しを勘案して低めに切る。

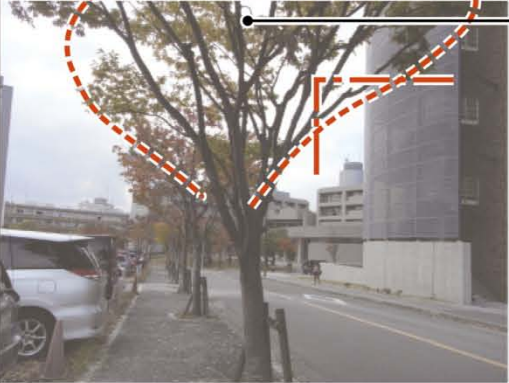
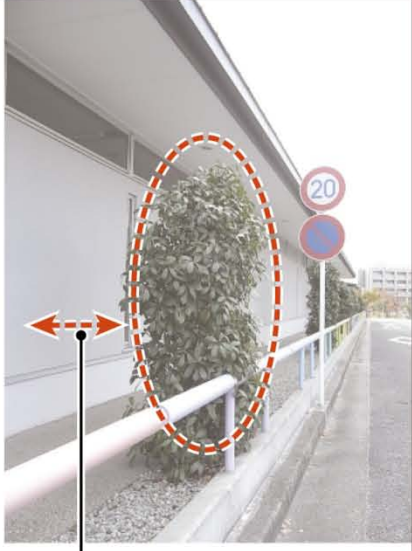
吹田キャンパス 07	街路名 さくら環状通り
樹種 ナンキンハゼ（卵形）、ソメイヨシノ（卵形）、アベリア類	
	ナンキンハゼは、車両や歩行者の障害になりうる枝を、2～3年に一度枝おろし・大透かしするだけで、極力切詰め剪定を行わない。
	見通しを確保するため、歩車道間の低木は高さ1m程度で切る。また歩道の有効幅員をできるだけ広く確保するよう切る。
	キャンパスのサクラには老木が多く、中長期的な植替え更新を含めて検討しておく。
	生育が悪く、車両や歩行者の障害にもなりやすいものは、除伐を含めて検討する。
	歩道の有効幅員をできるだけ広く確保するよう切る。このように、不審者が潜む可能性がない部分では、高さは特に問題にならない。

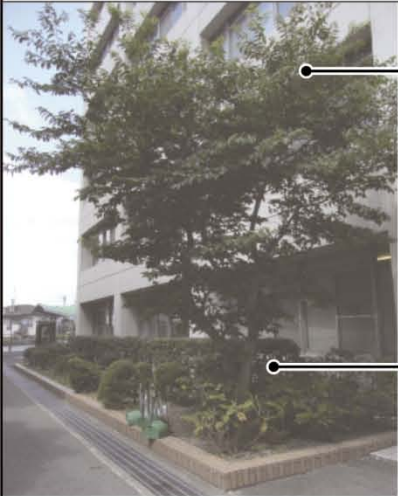
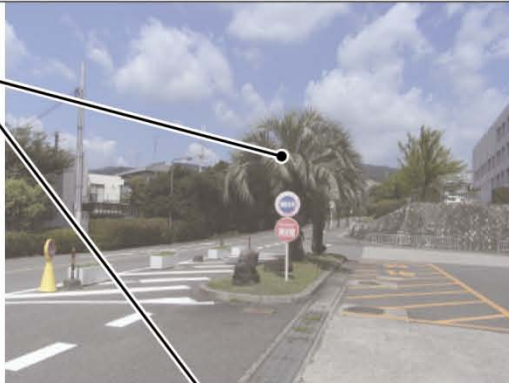
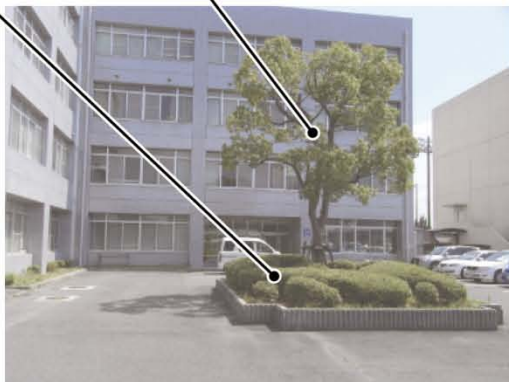
吹田キャンパス 08	街路名 さくら環状通り
樹種 トウカエデ（卵形）、セコイヤ類（円錐形）	
	卵形の樹形を活かしつつ、車両通行の障害になる可能性がある、または歩道上の有効高さ2.5m以下に出てくる枝は、2～3年に1回1本程度ずつ、幹の近くで切る。
	メタセコイヤは、歩道上の有効高さ2.5以下に枝が出てくるまたは車両の通行の障害になるようであれば、幹の近くから切る。それ以外は特に剪定を行わない。
	駐車場の遮蔽となる低木類は、高さ1.5m程度で切つてよいが車両出入口や、その他防犯上見通しが必要な部分（歩行者の通行が少ない・不審者が潜みやすい・全体に暗いなど）、では1.0m程度の高さで切る。

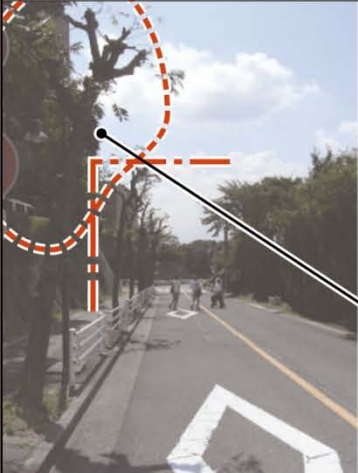
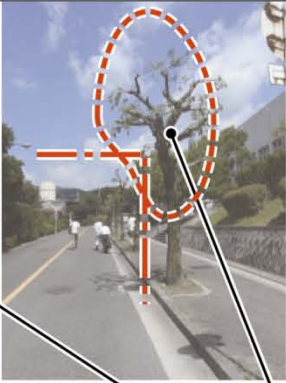
吹田キャンパス 09	街路名 北口通り
樹種 ナンキンハゼ (卵形)、イチョウ (卵形)、サザンカ、カイズカイブキ	
	ナンキンハゼは、車両や歩行者の障害になりうる枝を、2～3年に一度枝おろし・大透かしするだけでして、極力切詰め剪定を行わない。
	ツツジ類・アベリア類は、年に1～2回程度刈り込みを行う。歩道幅員を十分に確保するように、また見通し確保のために高さ約1m程度で切る。
	工学A1棟近傍の法面では、有志の手によりアジサイが育てられている。周辺の除草を年に3回、高木の剪定を2年に1回程度行う。
遊水池周辺では、夏に年1回、クズ等の除草を行う。 (写真が必要)	

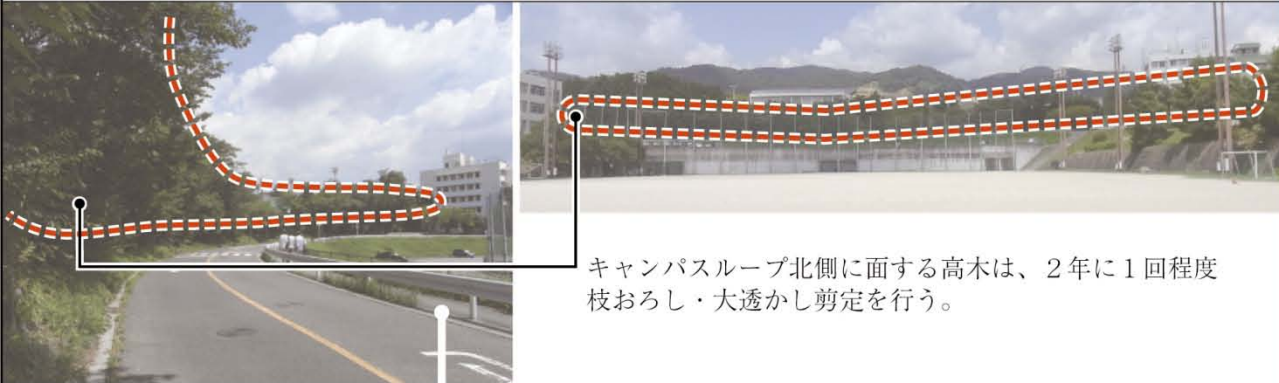
吹田キャンパス 10	街路名 けやき通り
樹種 ケヤキ (盃形)、サクラ (卵形)、ツツジ類	
	充分生育したケヤキは、車道の障害にならないことに留意しながら、2年に1回、1～2本程度、枝おろし、または大透かしを行い、自然な盃形を目指す。
	歩道沿いのツツジ類・アベリア類は、年に1～2回程度刈り込みを行い、歩道幅をできるだけ確保する。また、見通しを確保するため、高さ1m程度で切る。
サクラ類は、ひこばえやからみ枝等、特に低い部分の余計な枝を細いうちに伐っておき、太くなってから切らずにすむようにしておく。 斜面の木は、自然樹形も斜面なりとなる。	
	

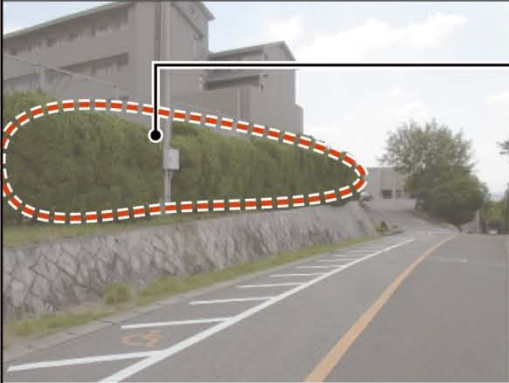
吹田キャンパス 11	街路名 小野原口通り
樹種 サクラ	
 サクラは、3年に1回程度中枝下ろし剪定するが、できれば3月頃に、胴吹きやひこばえの小枝は、太くなる前に根本から切除し、養分が小枝に奪われないようにするとともに、太くなってから切らなくてよいようにする。	

吹田キャンパス 12	街路名 たけのこ通り
樹種 カナメモチ、ケヤキ（盃形）、ツツジ、サザンカ	
 歯学部東側・北側のトベラツツジ等低木類は良く手入れされている。今後も歩道の幅員をできるだけ確保するように、刈り込む。	
 充分生育したケヤキは、車道の障害にならないことに留意しながら、2年に1回1～2本程度、枝おろし、または大透かしを行い、自然な盃形を目指す。	
 歩道の幅員をできるだけ確保するように、出来るだけ年に1回程度、刈り込む。	

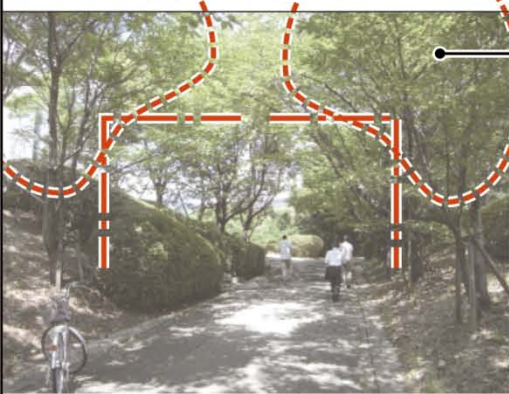
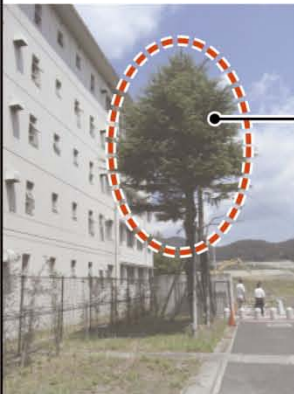
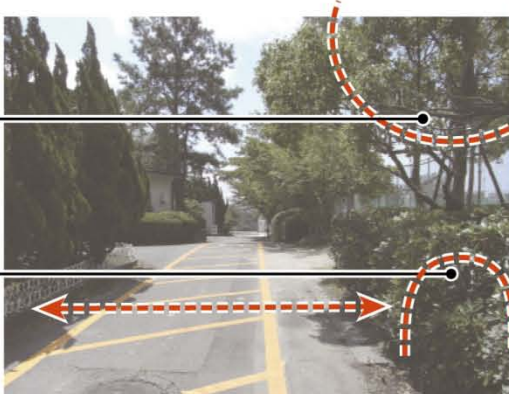
箕面キャンパス 共通	街路名 箕面キャンパスの特徴的な緑
樹種 場所によって様々。(各箇所にアクセントとなる樹木が配置されている … 維持すべき良い特徴)	
	建物前のアクセント樹木や、シンボル樹・植栽帯高木は年に1回程度、大透かし、中透かしの整枝剪定を行う。
	中低木は、刈込みの必要な仕立物は年に2回程度、その他は2年に1回程度、剪定する。
	擁壁等のツタ類は、年に1回程度、剪定する。
	

箕面キャンパス 1	街路名 キャンパスループ (西側)
樹種 シナサワグルミ (卵形)、カイズカイブキ、ほか	
	
	
南西門付近の樹林地は、一度間伐してキャンパス内側の樹木密度を減らす。その後2年に1回程度、枝おろし剪定する。 シナサワグルミは、直接的にバス (大型車両) の通行支障になる部分を除き、切詰め剪定 (強剪定) をやめ、枝抜き剪定で対応する。今までの強剪定によりコブが目立つものは、少しずつ切返し剪定によりコブを切除し、翌年の整枝剪定により樹形を整えていく。 中低木・生垣は、刈込みの必要な仕立物は年に2回程度、その他は2年に1回程度、剪定する。	

箕面キャンパス 2	街路名 キャンパスループ（北側）
樹種 ツツジ、アベリア類、ほか多様な樹種	
 キャンパスループ北側に面する高木は、2年に1回程度枝おろし・大透かし剪定を行う。	
 ツツジ、アベリア等の低木を年に1～2回刈り込むとともに、夏季にクズ等のツルを充分に除去し、歩道の有効幅を確保する。	

箕面キャンパス 3	街路名 キャンパスループ（東・講義棟周辺）
樹種 サクラ（卵形）、カイズカイブキ、ツツジ類	
 カイズカイブキの生垣は、2年に1回程度、刈り込む。	
建物前のアクセント樹木や、シンボル樹・植栽帯において、高木は年に1回程度、大透かし、中透かしの整枝剪定を行う。 中低木は、刈込みの必要な仕立物は年に2回程度、その他は2年に1回程度剪定する。	
 道路に面する側だけでも良いので、3年に1回程度、枝おろし・大透かしを行い道路への支障をなくす。	

箕面キャンパス 4	街路名 彩都口通り
樹種 要確認	
	高木の苗木が2 m程度以上に育った時点で、間引きを行い密度を半分以下程度に減らす。
	低木の生育が悪い部分は、機会があれば補植や、地被類・宿根花草の植栽・播種を検討する。

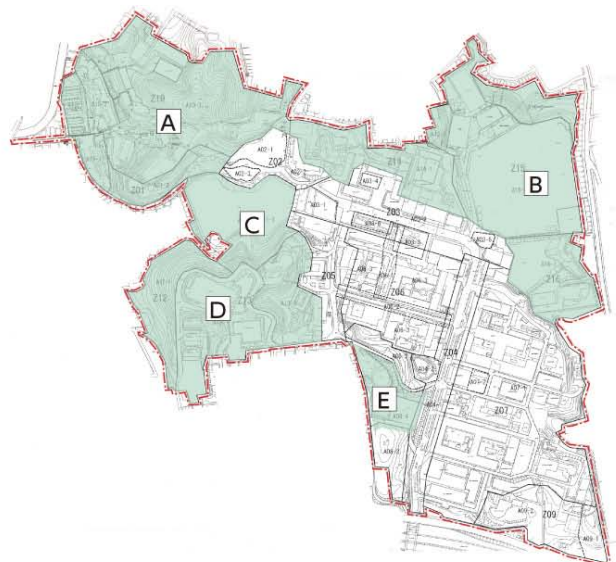
箕面キャンパス 5	街路名 各所の特徴的な緑
樹種 (場所によって様々)	
	2～3年に1回枝おろし・大透かしを行い、車両の通行障害をなくし見通しと街路の明るさを確保する。
	コーナー部で見通しの支障となる低木類は、除去してよい。
	枝下高さを2.5m～3m確保して見通しを良くする。 2～3年に1回、枝おろし、大透かし剪定する。
	
低木についても、年に1～2回程度刈り込み、高さを抑えて見通しを良くする。また通路の有効幅員を確保する。	

3-4. 保全育成のデザインガイドライン

保全育成とは、極力現況の緑を継承するものであり、現況が良好であればその状態を維持し、樹形や密度に問題があれば徐々に良好な状態へと改善を進めるものであり、必要であれば大規模な面整備の対象となることも検討する。

・保全育成の対象となる場所（豊中）

- A. 待兼山の里山景観
- B. 市道沿い桜並木を含むグラウンド周り
- C. 中山池とその周辺
- D. 待兼会館周辺と西側外周樹林
- E. 待兼池とその周辺



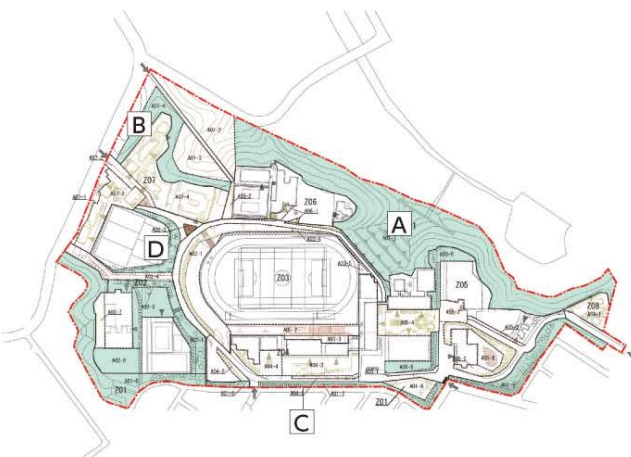
・保全育成の対象となる場所（吹田）

- A. 北西側外周樹林地
- B. テクノアイランス周辺
- C. 東門周辺
- D. 東側樹林地



・保全育成の対象となる場所（箕面）

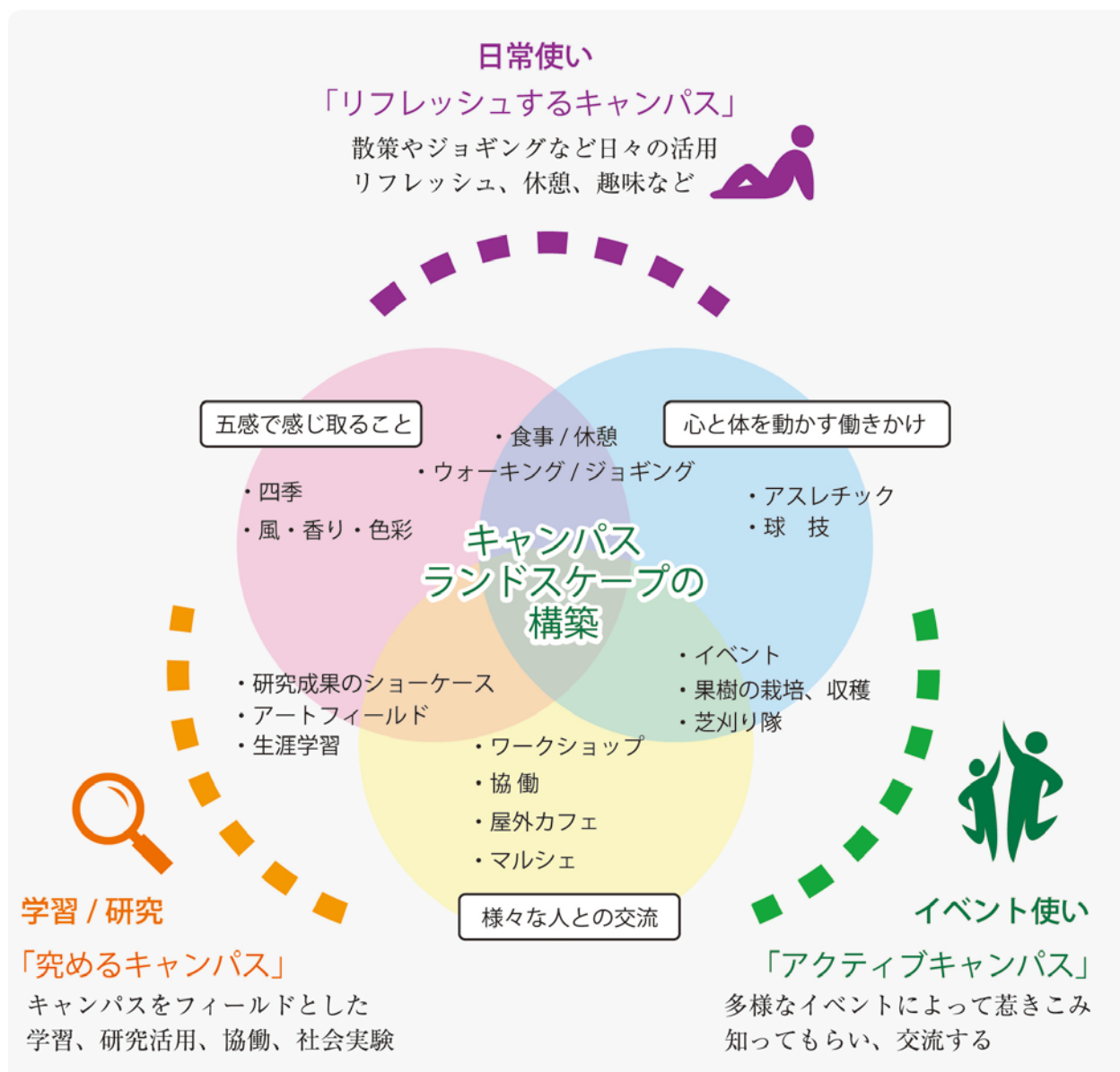
- A. 東側樹林地
- B. 北側樹林地
- C. 西側緩衝緑地
- D. キャンパスループ北側樹林地と
体育館周辺緑地



□ 4. キャンパスのランドスケープがつなぐ多様な活動

4-1. キャンパスの使われ方と一体となったランドスケープの考え方

1 章、「緑のコンセプト」より導かれるランドスケープの使われ方は、充実したキャンパスライフに不可欠な三態に集約される。



-キャンパスの使い方三態-

4.2. 多様な活動の提案

進行中のプロジェクトも含め、キャンパスを活かした様々な活動を提案する。

イベント・プロジェクトの例

タケの会

植物探検隊

屋台カフェ

学生アイデアコンペ

ヤギウォーク（除草実験）

キャンパスミュージアムプロジェクト

花植プロジェクト

キャンパスグリーンデイ

キャンパスマップコンテスト
（防災 / 食堂 / お散歩 / 地域資源発掘など）

里山炭焼き / 竹炭焼きプロジェクト

ほたるの水路プロジェクト

ジョギング・トレイルランニング
コース形成プロジェクト

阪大坂流しそうめん

中山池 / 乳母谷池 / 待兼池 / 犬養池
釣堀プロジェクト

キャンパスランドスケープ写真コンテスト

ユニボ乗り体験イベント

屋台村プロジェクト

現在進行中のプロジェクト

地域住民や学生教職員との協働

（豊中）タケの会活動

紫原町ほか地域住民の協力を得て、年に5回のタケヤブ間伐、清掃、タケノコ掘り等の活動をH24年から行っている。毎回30～100人規模のイベントとなっており1年生を中心とした授業「キャンパスデザインプロジェクト」の一環ともなっている。後に間伐した竹材を使ってのにも発展した。



（豊中）阪大坂流しそうめんプロジェクト

タケの会活動から間伐した竹材を利用したアイデアから発展した。



キャンパスをフィールドとする学生教職員等のとりくみ

（吹田）サイバーメディアcommons学内コンペディション

使い方やネーミング、ロゴ、内装にいたるまでデザインのアイデアを学生からコンペ形式で募集し実際の整備にも反映することができた。

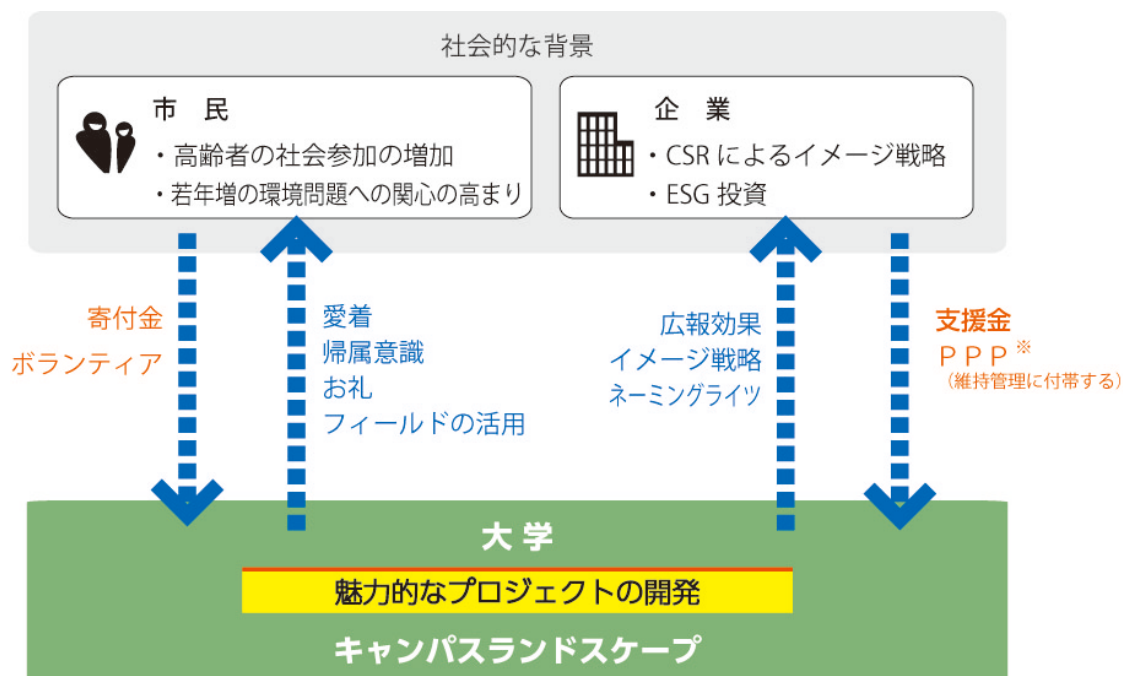
（吹田）カフェの実験的な出店（サードプレイスの研究）

（豊中）キャンパス内のパブリックスペース3箇所について 学生、地域住民、行政と連携した整備プロセスの計画



4.3. キャンパスへの愛着の醸成と、基金や PPP との関係

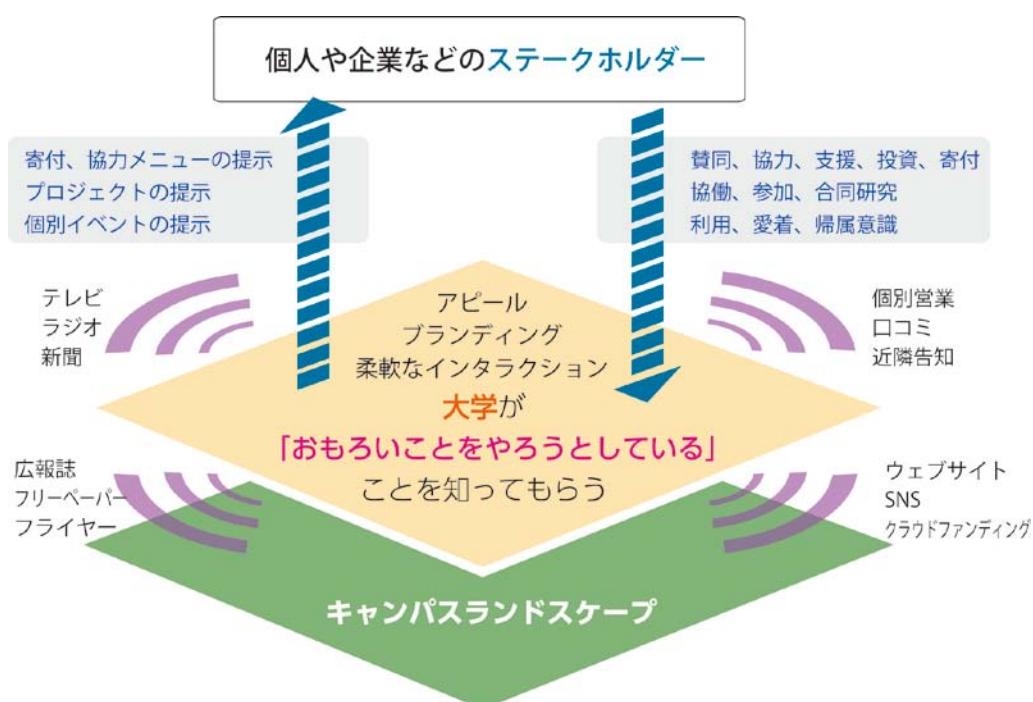
社会的な背景として、一般の方の社会参加や環境問題への関心の高まりや、企業においてもよりよい社会貢献の契機が求められている。これらのステークホルダーより、良好なランドスケープ環境を維持しうる予算とマンパワーの提供を受けるかわりに、大学側は安全で美しい場所と、魅力的な企画を提供するサイクルをつくることのぞまれる。



※Public-private partnership (官民パートナーシップ)
契約の中に事業者による植栽の管理を含めることも考えられる。

4.4. 広報との連携やブランディング

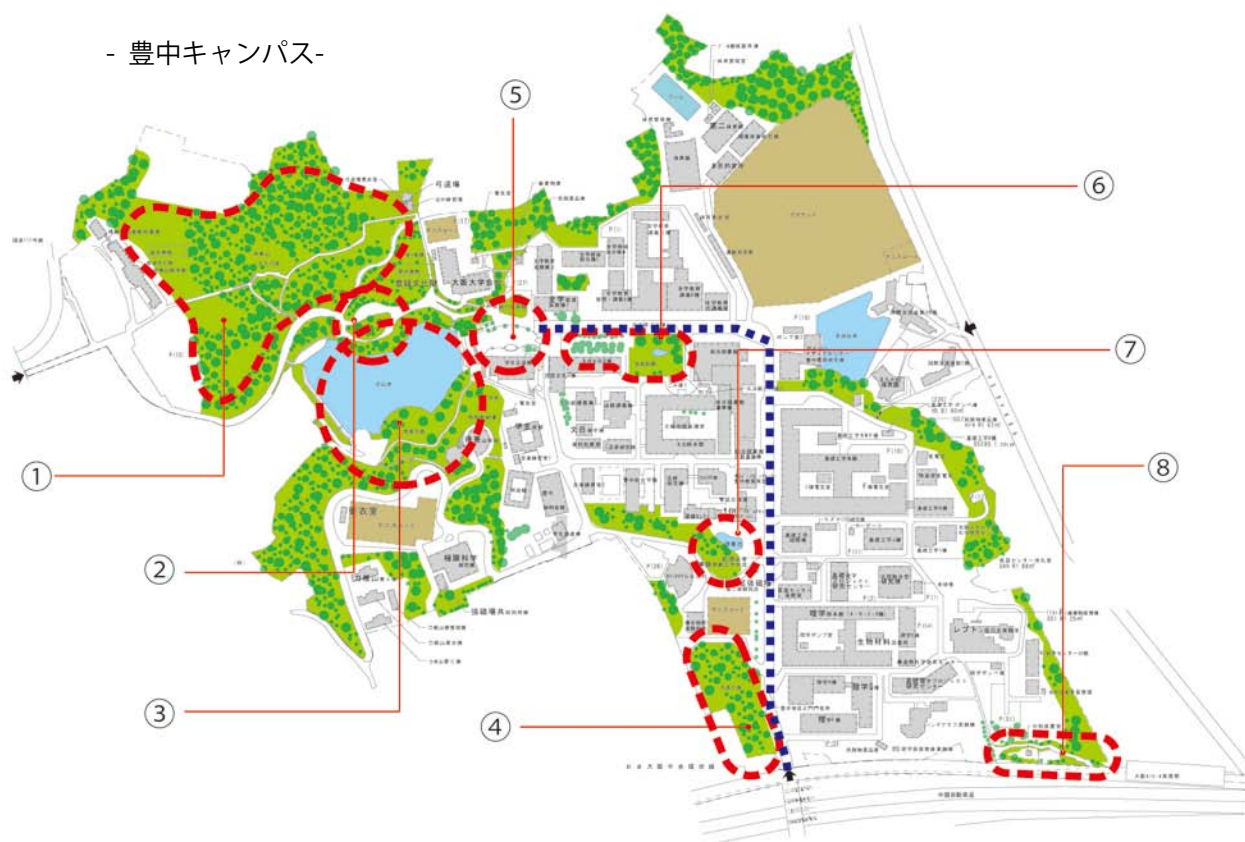
4.3 で述べたような、様々なステークホルダーと一体となって生まれるサイクルは、必然的に広報との連携によって常に同時進行で行うことが必要不可欠であり、またそれらは統一された指針とビジュアルによるブランディングがなされることではじめて効果をもたらす。



□ 5. 緑のリーディングプロジェクト

主要な広場や緑地資源など、キャンパス各所のランドスケープ（風景、景観）の改善と安全上の改善を目的とする。

- 豊中キャンパス-



5-1. 対象地の現況整理および特徴の抽出

① 待兼山「文化の森」

枕草子や新古今和歌集にも登場する歴史的、文化的にも非常に重要な丘陵地。現在はクヌギ、コナラなどの雑木の山となっており貴重な自然資源といえる。散策道や石碑、コンクリート構造物も見られ、既にいくつかの学内活動の活動地として利用されている。現在駐車場となっている箇所から弥生時代の古墳が発見され、丘陵一体が文化財台帳に登録されている。

② 石橋口「50周年庭園」

既存の雑木林を背景につつじを中心とした庭園が造られている。つつじはきれいに刈り込まれ適切な管理が行われている一方で大きく育ったものもあり、視界が遮られてる箇所もある。

③ 中山池周回遊歩道、刀根山「思索の森」

中山池を眺めながら歩ける気持ちよい雑木の散策道。ウッドチップ舗装や照明などが整備されている。

④ 大高の森

正門に隣接して立地する緑地。動線沿いの高低差の上に低木が大きく育っていることで認識しにくい空間となっている。旧制大阪高等学校の創立を記念する憩いの緑地であるが、より一層認知され、利用されていくことが期待される。

⑤ 中山池交流広場

中山池に面した芝生広場。日常動線に加え、イベントなどにも利用されている。踏圧および日照や排水などの理由から芝の状況はあまり良くない。

⑥ 浪高庭園および周辺

メインストリートに面する緑地。浪高庭園は景石や池を配した庭園となっている。しかし、メインストリートとは大きく育った低木により視界が遮蔽されており、好立地のオープンスペースとしては非常にもったいない状況である。

⑦ 待兼池周辺

待兼池周りにはデッキが整備され、斜面地には遊歩道も設置されるなど、気持ちの良い緑地となっている。

⑧ 柴原口周辺

モノレール駅からの玄関として2012年に雑木を主体とした緑地整備が行われている。植栽樹木がまだ小さいこともあり、明るく開放的な動線環境となっている。かつての植生をあらわす貴重なアカマツも見られる。今後経年的にさらに美しい雑木林が形成されることが期待できる。

- 吹田キャンパス -



① 北端部周辺竹林

まとまった緑地であるが急勾配な竹林であり、立地面からも活動対象地とするには困難である。

② さくら環状通り

大きく育ったソメイヨシノが多く見られる幹線道路。東西通りと同様、歩道部植栽の改修による景観改修が有効と考えられる。

③ 東西通り(メインストリート)

キャンパスを横断するメインストリート。美しい樹形のケヤキが見られる。キャンパスをイメージ付ける景観として、歩道植栽の改修は有効と考えられる。これらを活動対象としていくための明確な方針が必要と考えられる。

④ 西門～府道沿い緑地

西門周辺には美しい植栽地が形成されている。府道側に向けた斜面地の緑地は、キャンパス地盤高においても良好な緑陰が見られる箇所がある。通りとしての魅力向上は可能と考えられるが、立地からは優先順位の高いエリアと言えない。

⑤ 本部周辺竹林(西)

保育園にも面し、遊びの森となれば非常に有効な緑地であるが、急勾配でかつ細かな起伏も多い竹林となっている。利用するには大規模な造成が必要と考えられる。

⑥ 薬用植物園

様々な植物が育つ興味深い緑地であり、薬学部・薬学研究科の研究施設である。

⑦ 正門周辺

正門としてシンボリックな空間が形成され、良好に維持管理されている。

⑧ 人科周辺緑地

幹線道に面した公園緑地的な空間であり、景観面で重要な空間と云える。一方で歩道沿いの灌木が閉鎖感を感じさせる。オープンな緑地とすることで、何らかの活動空間として活かすことが可能と考えられる。

⑨ 本部周辺竹林(東)

ほとんどが急勾配の竹林であり、利用という面では困難な地形である。本部棟への車路沿いの一部に緩勾配なスペースが見られ、松が植栽されている。景観や環境的な側面からの改修対象地としては効果の高い空間である。

⑩ 犬飼池東側遊水池

上記と同様に最も重要で有効な緑地と考えられる。遊水池の排水設備に故障が見られることから、水位が上がらない(配管が隠れない)、オリフィスが機能しないという問題がある。また、隣地に大規模な土砂の堆積地があり、景観、環境面での問題もある。親水空間としての活用が求められる。

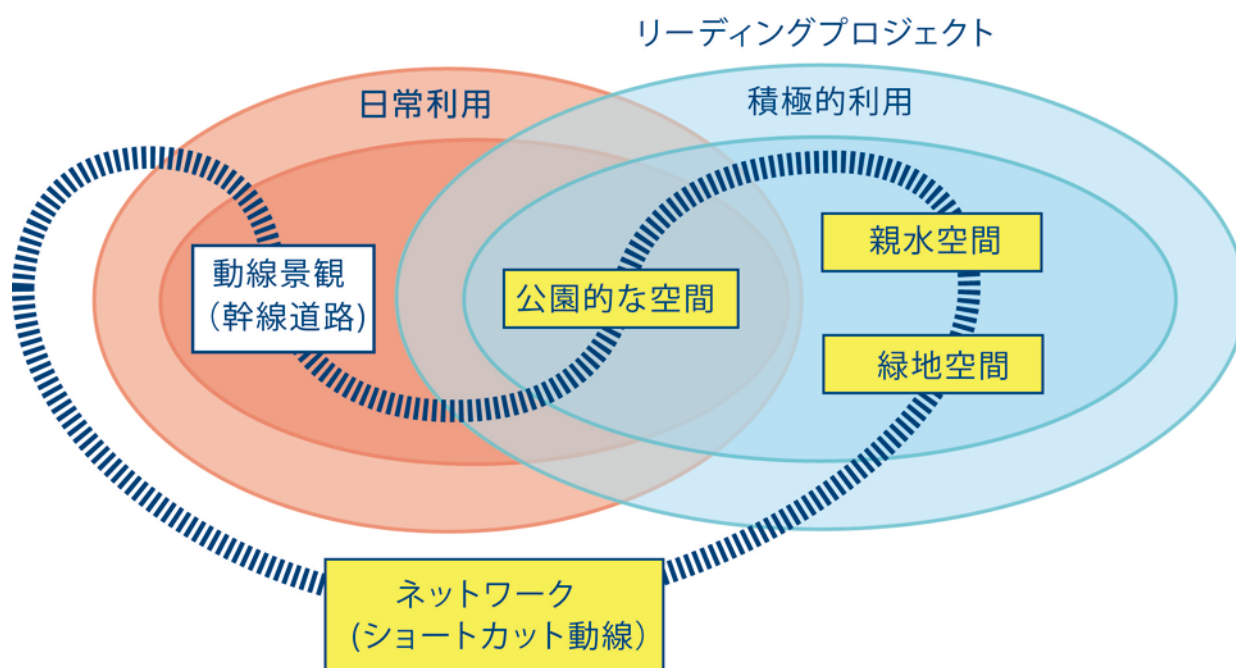
⑪ 犬飼池周辺竹林

吹田キャンパス内における配置、ボリュームともに最も重要で有効な緑地と考えられる。一部で竹林を抜ける遊歩道の整備が行われているが、ほとんどが急勾配の竹林となっており、大規模な造成を伴う動線整備を行わなければ竹林内を有効に利用するのは困難である。後に植栽されたもの、元来生えていたであろう大径木など、少量ではあるが広葉樹も見られる。犬飼池および遊水池が隣接し、キャンパスの中央に近い好立地であると云える。

5-2. 対象地の分類

先にあげた対象地をタイプごとに分類し、リーディングプロジェクトで大きな効果が得られる箇所をモデルケースとして整備する。

動線景観	…… 例：吹田さくら環状通り、東西通り └─ 日常利用として維持管理にて対応する。
公園的な空間	…… 例：吹田人間科学部前周辺緑地、豊中 浪高庭園、大高の森
親水空間	…… 例：犬飼池・遊水池
緑地空間	…… 例：豊中待兼山「文化の森」
ネットワーク	…… それらをつなぐ日常細動線



5-3. 対象地ごとのイメージ

○ 公園的な空間の整備と利用のイメージ

- ・ 日常で、またイベント時に使いやすい「利用空間」として活用。
- ・ 敷地を区切る灌木の撤去 → より見通しのよい道路と連続する空間に。
- ・ 休憩施設の拡充
- ・ イベントや移動販売

豊中キャンパス 浪高庭園の利用イメージ



吹田キャンパス 人間科学部前のイメージ



○ 親水空間の整備、利用イメージ

犬飼池・遊水池を具体計画地として設定する。

①. 犬飼池および遊水池

水際のボードウォーク整備、排水管の修理(水位の安定)、
利用困難であった竹林へのアクセス道の整備、照明工事

②. 丘の緑地

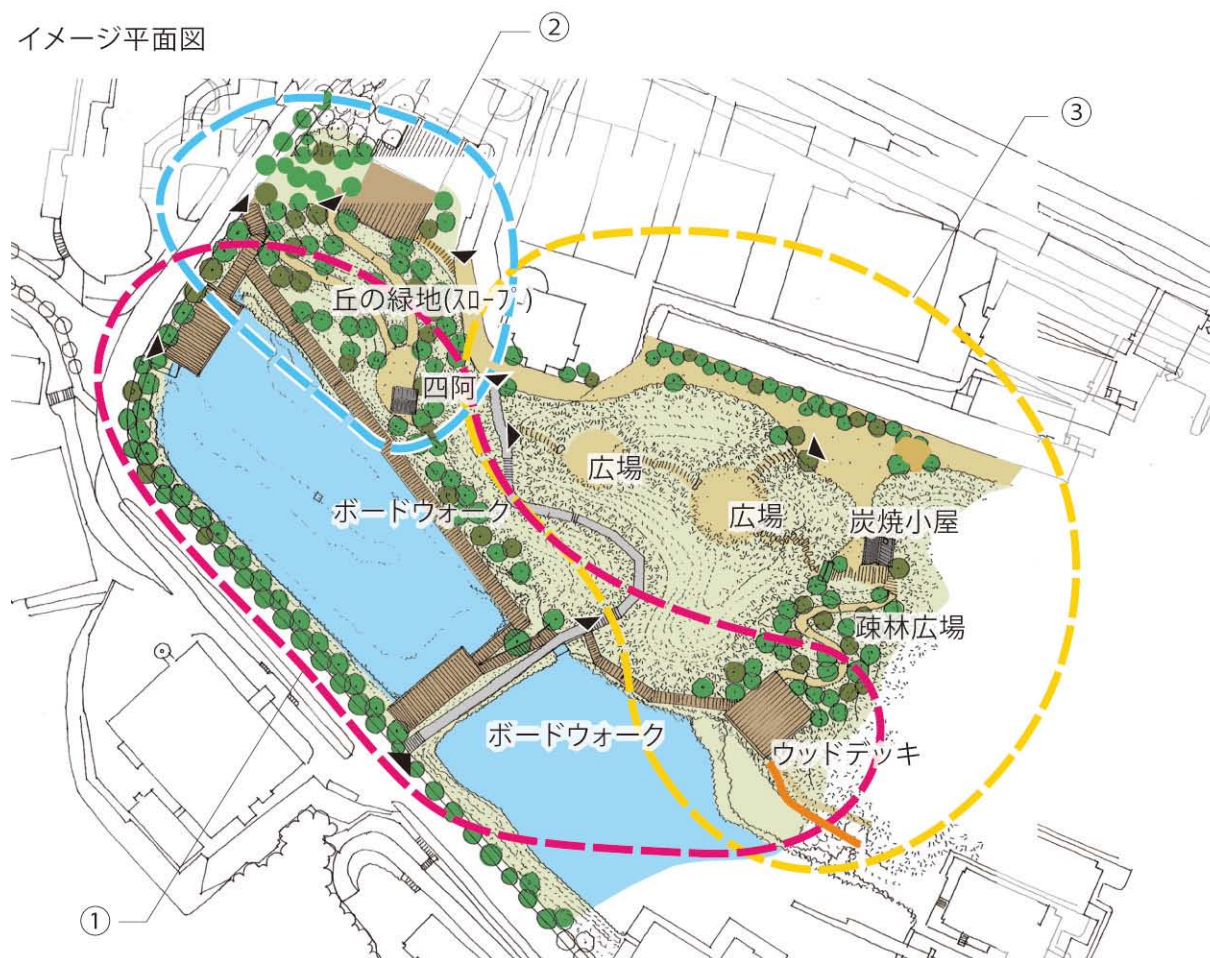
造成工事(全約2,000m³を下記造成工事にて活用)
動線整備、植栽、四阿、照明工事

③. 竹 林

造成工事、動線整備、広場整備、デッキ整備、伐採伐根、植栽、照明工事

このエリアを吹田キャンパスの新たな名所として、また利用もできる空間として活かしていく。大規模な整備工事を除き、日々の活動やイベントなどで徐々に作り上げていくフィールドとして利用する。ネーミンググライツなどにも利用できるものと考えられる。

イメージ平面図

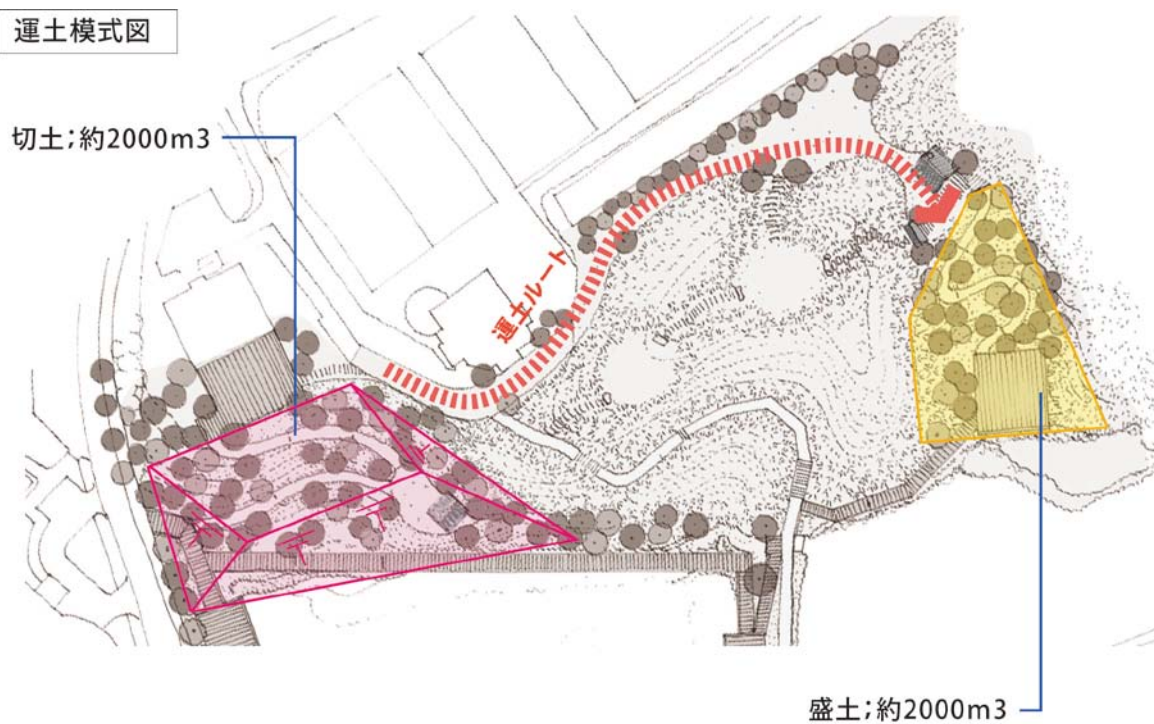


①. 遊水池（ボードウォーク） ②丘の緑地の整備イメージ

親水性を高めるためのボードウォークを整備し、サイバーメディアセンター側からもアクセスできるように、土砂の堆積地は傾斜がなだらかなるよう造成を行い、見ても利用しても楽しめる新たなシンボルとなる丘の緑地として整備を検討する。傾斜を緩めるための切土による残土は、西方の谷を埋める客土として利用することも考えられる。



運土模式図



③. 竹林の整備イメージ

造作物やイベント、竹炭づくりなどに竹を利用しながら広葉樹に植替えを進めることで、少しずつ竹林を雑木林に変えていく。竹炭や竹酢液は、水質浄化や土壌改良材として利用できる。



○ 緑地空間の整備、利用イメージ

待兼山を具体計画地として設定する。

①. 広場の整備

利用できる広場スペース、ウッドデッキなどを整備。水道、照明工事

②. 炭焼小屋、陶器焼き窯の整備

雑木林を使っていくための装置として炭焼小屋、窯を整備。

③. サインの整備

歴史、文化的に貴重な待兼山の資源を紹介するため、修学館と連動したサイン配置を行う。

既述の通り待兼山は、歴史的にも非常に重要な山であるとともに、雑木で構成された美しい里山でもある。近年燃料としての役割を終えた薪炭材を利用する活動フィールドとして、日常およびイベントなどにより待兼山を積極的に活かし、歴史、文化、自然、生産などの観点に加え、癒やしや感性を育む場としても有効な空間として利用する。また、貴重な資源としての「待兼山」を既に行われている活動に加え、さらなる利用を促進するものとする。

イメージ平面図



利用イメージ



○ ネットワーク（ショートカット動線）の整備、利用イメージ

各対象地をつなぐ日常細動線（ショートカット）を整備し、多様な学生の活動を支援するフィールドとする。

①. ショートカットの舗装整備

日常の細動線として、またジョギング、トレイルランニングコースとして整備しアクティブな利用と対象地の連続性をつくる。

②. サインの整備

ジョギング、トレイルランニングコースとして距離表示やモデルコースの整備。

③. ショートカットに隣接する空間の整備

日常利用やイベント時に必要な余白としての整備。



現況

利用イメージ

ランニングコースの形成
キャンパスミュージアム
屋台カフェプロジェクト



・ジョギング、トレイルランニングのモデルコース（例）

- 豊中キャンパス-



□ ルートサイン



コース上に一定間隔でシンプルなマーキングを施してルートを示す。

□ 植栽地や土部のサインイメージ



コンクリートキューブにステンシルサイン

□ 情報サイン



-サイン型枠



ステンシルを利用したサインのイメージ

- 吹田キャンパス-



□ 6. 今後の課題

6-1. 活動を回していく組織体制

1 章や 4 章で記載している通り、今後キャンパスランドスケープの構築を目指すにあたっては、現状以上に多様な活動を展開していく事になる。学生や教職員だけでなく、市民や企業ともこれまで以上の連携が必要となる。加えて学内において一体的なマネジメントが必要となる。しかし現在学内の体制は、キャンパスランドスケープに専門的に対応する組織がなく、土地の管理、学生の活動、地域連携など、機能ごとに組織体制が異なっており、柔軟な対応が取りにくくなっている。

今後多様な活動を展開するにあたって、組織体制を見直していく必要がある。

6-2. 部局管理方式か、中央（本部）管理式か

国立大学が独立法人化となった 2004 年以前から現在に至るまで、本学では部局ごとに管理敷地を決め、各部局において周辺緑地の管理を行ってきた。これは約 160 万㎡ある本学キャンパスにおいて、普段目の届く範囲にいる職員が管理することで、管理レベルを維持するのに一定の役割を果たしてきた。しかし独立法人化後、大学予算が厳しくなる中において近年ランドスケープの管理が各部局単位では厳しくなりつつあり、管理レベルに差が出始めている。そのためキャンパス全体のランドスケープの管理において従来の部局管理方式か、中央管理式か、そのメリット・デメリットを踏まえながら今後検討していく必要がある。

6-3. 環境税（留保金など）の検討

キャンパスランドスケープを維持発展させていくためには、一定の維持費が毎年必要となる。4 章で示した多様な活動や、それらから発展した基金や PPP 等を進めるにしても、大学内での継続的な維持費の確保は必要であり、これらを捻出するため大学施設の老朽化対策として実施している学内での“環境税”的な予算確保の仕組みを今後検討していく必要がある。

6-4. 新箕面キャンパスの検討

2-3 で触れた箕面キャンパスについては、現在同じ箕面市内の船場東地区への移転が正式決定されており、現在郊外に立地している緑豊かな約 14 万㎡ある現箕面キャンパスから、都市型キャンパスとして駅前の 8,000 ㎡の土地へ移転する。新キャンパスにおいてはキャンパス敷地面積の関係や駅前立地であることから、現箕面キャンパスとは全く異なるランドスケープの考え方を改めて検討する必要がある。出来るだけ緑豊かな空間を確保しつつ、隣接する敷地との関係性も考慮しながら、現在設計作業を進めているところである。

□ 資料編

1. 用語の説明	・ ・ ・ ・ ・ 53
2. 緑の現況分析補足資料	・ ・ ・ ・ ・ 54
3. 維持管理のデザインガイドライン補足資料	・ ・ ・ ・ ・ 69

1. 用語の定義

緑	狭義には、樹木、草本植物、植栽、樹林をさす。広義には、樹木や草本植物を中心にした、樹林地などの一群の生態系、またはその視覚的な構成（景観）をさす。
緑地	ミクロスケールでは、植栽とほぼ同義。マクロスケールでは、緑と同義。
植栽（帯）	景観や美観のために、人工的に植えられた植物、および植物群をさす。
草本植物	草の類。植栽に含まれるものと、雑草がある。また一年草と多年草（宿根草）がある。ササを含む。
地被類	一般にはシバ、タマリユウ、コケ類など。いわゆるグラウンドカバープランツ。ハイビヤクシン、ハラン、シランや、面的に植えられたビンカミノールなどの草花類も含む。
樹木	低木、中木、高木等をさす。タケを含む。
樹林（地）	樹木を中心とした一群の緑をさす。林、森。竹ヤブを含む。
<u>改善</u>	整備と工事、および、継続的な維持管理で徐々に良くしてゆくことの総称。
<u>工事</u>	図面などにより、植栽や、固定的な景観構成要素を、まとまった範囲で新設、補修、または撤去（除伐・除草を含む）すること。
<u>整備</u>	花壇や舗装整備など、緑地に関連する工事を伴う行為。
<u>維持管理</u>	緑については、剪定、除伐、除草、施肥、倒木処理を総称していう。また、景観構成要素に対しては、清掃、補修したり、部分的に取り替えて、機能・美観を保つよう管理することをいう。 維持管理方針で想定する樹姿になるよう、状況に応じて、芽を持たない小枝や不要枝などの選択的整理を行う。また、自然形、人工仕立形、刈込み仕立形等で、ある程度想定する樹姿の出来ている樹木の枝を整える。間引・植替・植樹を含む行為。
<u>保全育成</u>	現状をそのまま保護する。原則として手を加えないが、倒木の撤去や林床等の保全を図る行為。
整枝剪定	自然形、人工仕立形、刈込み仕立形等で、ある程度形の出来ている樹木の枝を整える剪定である。
整姿剪定	さらに木の姿を美しくするために、枝の配置が均等になるように、ひこばえや、車枝など、不要な枝葉を刈り込みをすること。樹木の最も美しい自然の木姿を作る骨格剪定である。
弱剪定	枝先を整えたり混んだ枝を間引く程度に剪定すること。樹姿がほぼ完成されたものの場合や剪定による切断口の回復力の弱い樹木、成長の緩慢なものはこの方法による。また、ハナミズキやけやきなど、剪定しないでも自然と形が整うものはこのやり方。
強剪定	主に落葉樹木や、成長力の旺盛な常緑樹木では、強剪定することで、高さを調整したり枝ぶりを変更することができる。カエデ、カシなど、回復力が強い街路樹や生垣などに適用されることが多い。ただし、失敗して不自然な樹形になることも多いので、注意が必要である。
除伐	植物を幹から伐り倒し、または根から掘り起こして（伐根）撤去すること。樹木の場合は伐採ともいう。
除草	雑草を取り除くこと。手摘み（狭い範囲、植栽を傷めない注意が必要となる場合など）と機械除草がある。除草剤の使用は考慮に入れない。
施肥	植栽に対して肥料を施すこと。
景観	地形、緑、空、建物や外構工作物類などによって構成される、建物外部空間の見え方。季節や天候、時刻による変化も含まれる。
景観構成要素	建物や外構工作物、看板類など、景観を構成する要素。景観を構成する意図をもって配置されたものを中心に考えるが、場合によっては、その意図の無いもの（自動車や自転車、注意看板類、仮置きの商品など）も含むことがある。

2. 緑の現状分析

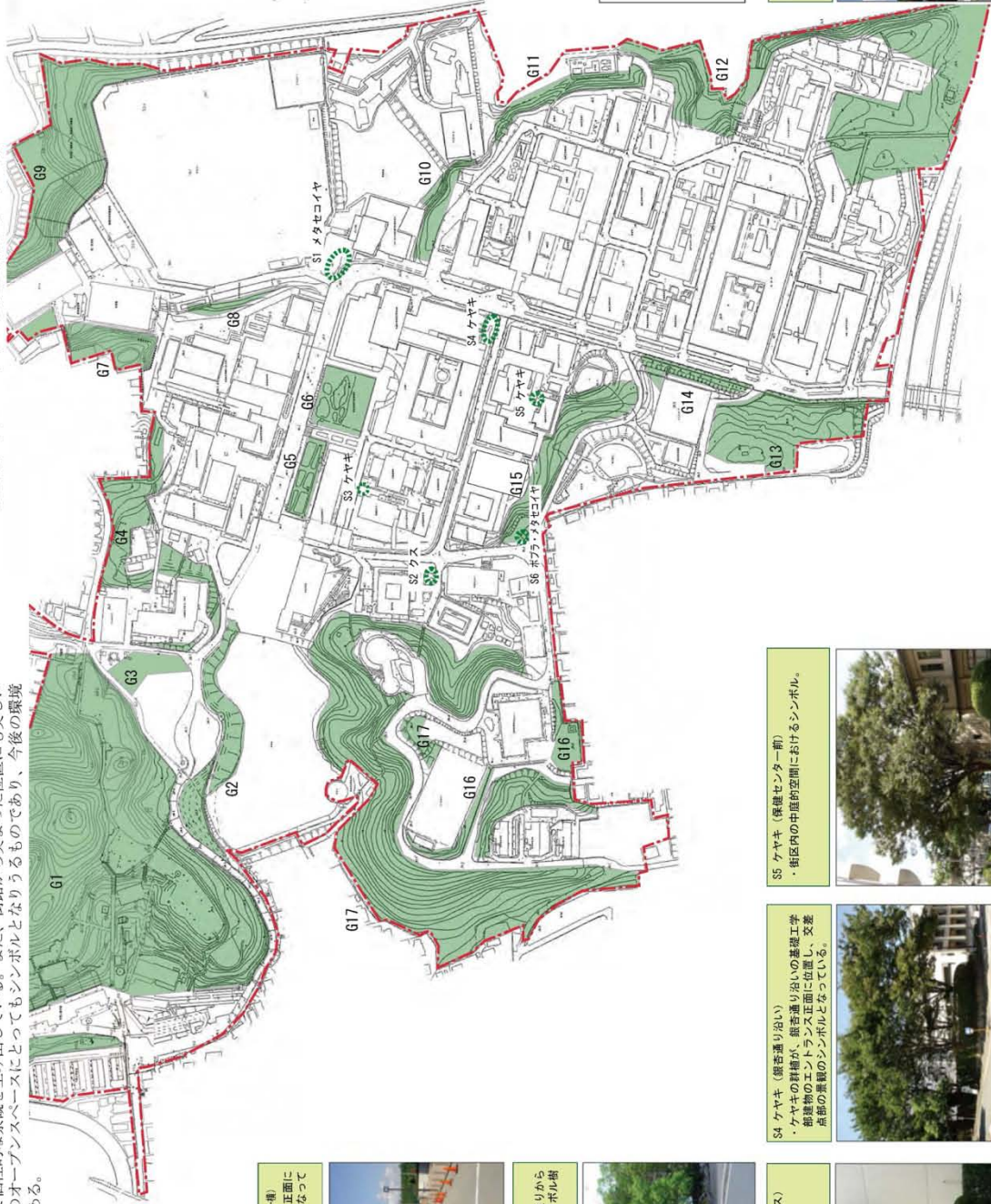
2-1-1. 樹木・樹林地の構成（豊中）

シンボルとなる樹木：

豊中キャンパスには、主要街路の交差点にメタセコイヤやポプラなど高木の群植があり、街路のアイストップやアクセントとして個性的な景観を生み出している。また、街路から奥まった位置にも美しい樹形の樹木があり、街区内のオープンスペースにとってもシンボルとなりうるものであり、今後の環境整備で生かしていく必要がある。

主要な樹林：

キャンパスのエッジには、キャンパス開発前から里山として地域で維持されていた樹林が残されている。また、キャンパスの内側にも坂道や建物周辺の法面などに小規模な樹林があり、建物が建て込んだ豊中キャンパスにおいて貴重な緑となっている。



S1 メタセコイヤ（サイバーメディアセンター前）
・キャンパス正門から続く縦書き通りの正面に位置し、特徴的な樹形がシンボルとなっている。



S2 クス（豊中福祉会館後）
・福利ゾーンを中心に位置し、文庫通りからのアイストップにもなる重要なシンボル樹である。



S3 ケヤキ（文法経理棟エントランス）
・エントランス空間のシンボル樹



S4 ケヤキ（縦書き通り沿い）
・ケヤキの群植が、縦書き通りの基礎工学部建物のエントランス正面に位置し、交差点部の景観のシンボルとなっている。



S5 ケヤキ（保健センター前）
・街区内の中庭的空間におけるシンボル。

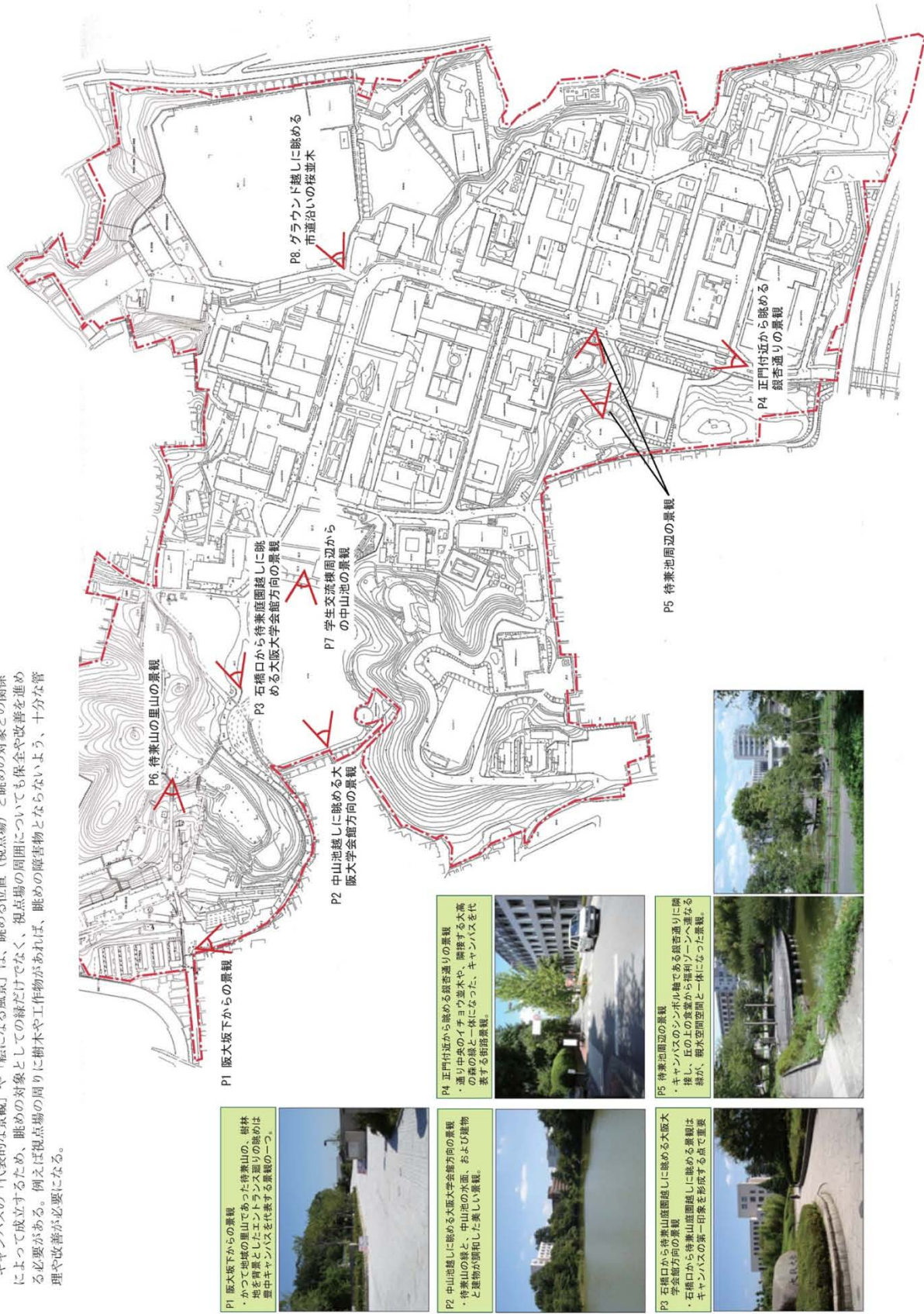


S6 ポプラ・メタセコイヤ（福利ゾーン丘）
・ポプラとメタセコイヤの樹木群が、学生、教職員等の集まる福利ゾーンへ向かう丘の上に位置する。



2-1-2. 緑の景観ポイント（豊中）

キャンパスの「代表的な景観」や「絵になる風景」は、眺める位置（視点場）と眺めの対象との関係によって成立するため、眺めの対象としての緑だけでなく、視点場の周囲についても保全や改善を進める必要がある。例えば視点場の周りに樹木や工作物があれば、眺めの障害物とならないよう、十分な管理や改善が必要になる。



2-1-3. 街路における緑の景観構成（豊中）

街路では、両側の建物やオープンスペースが一体となって景観が構成されるため、樹木の樹形や樹種の選定においても、街路両側で調和のとれた配感が必要である。維持管理による樹形の形成も広義の「デザイン」であると考え（建物や広場の形態や色彩を決めることだけがデザインではない）、沿道を含めた街路の空間を1つのデザイン単位として扱う。

ST1 阪大坂
・待兼山の樹林地沿いと住宅地の間をまわり
込む環道の空間



ST2 待兼山庭園・大阪大学会館沿い
・庭園や大阪大学会館涼風、中山形沿いの樹
林地の中を、河曲しながら連続する環道の
空間で、キャンパス内中心部へ通る



ST3 メインストリート
・キャンパス内のシンボル的な歩行者空間と
して位置づけられるが、現況では駐輪が目
立つ。



ST4 館前通り
・中央分館前にはイチョウ並木が連続、東側
は理学部と基礎工学部の建物が連続し、西
側は大富の駅や待兼山等の緑が連続する。



ST5 学生会館通り・らふおれ通り
・人の集まる施設が連続し自動車と人が混
在する空間。東は理学部会館から待兼山ま
での間は新道の樹林地が隣接する。



ST6 文系通り
・文法楼本館前には、街路側の並木が連続する。



(凡例)



街路のデザイン単位

ST7 文系中通り
・キャンパス内を南北に結ぶサブ的な歩行者
空間



ST8 柴原通り・基礎工通り
・中央分館前に隣接した位置にあり、キャン
パス内のパワーステーションとして貴重な樹林
地の空間



ST8 柴原通り・基礎工通り

街路と広場は、沿道や周囲の建物と緑を一体的にデザインする必要がある。このため、街路のデザイン単位に加えて、広場のデザイン単位を設定し、各単位に合わせたデザインガイドラインを別定めることとする（後述）。

また、主要街路や人通りの多い通路沿い、門周辺や主要建物エントランスまわりの緑は「見せる」ための積極的なデザインを行うことが望ましい。すでにその水準にある緑は現況を継承し、十分な緑については積極的な改善や育成を行うことにより修景を図る必要がある。

一方、緩衝緑地や人の動線から奥まった、キャンパスの「背景」や「基調」をつくる緑については、現況の植生を良好な状態で継承することとする。

なお、「背景」の縁であっても、住宅地に面する部分については住宅地に配慮した維持管理を十分に行うこととし、主要街路に沿う部分についても人目に触れることに配慮した維持管理の水準を確保する必要がある。



- 景観ポイント
- シンボル樹
- 街路のデザイン単位
- 広場のデザイン単位
- 積極的な景観形成
- 背景としての景観形成

◆緑の現状と課題一覧表（豊中）

ここでは、キャンパス全体をゾーンとエリアに分割し、エリアごとに維持管理の方針を設定するための条件整理をする。

緑の役割は、緑が位置する場所の機能（広場・通路・駐車場など）や地形により異なるため、各エリアがどのような機能や地形から構成されているかを整理する必要がある。機能と地形の条件を「緑の構成要素」と呼び、現状・課題とともに一覧表にまとめた。

（注）低木・草地
草地を主体とし、①草地、
②草地と低木の組み合わせ、
③草地と灌木の組み合わせのいずれかに相当する緑地を指す。

ゾーン		エリア		緑の構成要素						現状・課題 ※：課題を指す	
				樹林	水面	法面	広場	低木 草地 (注)	樹周辺	通路	道路
Z1 阪大坂		A01-1 エントランス広場 A01-2 阪大坂沿い A02-1 待兼山庭園 A02-2 学生会館周辺 A02-3 中山池周辺樹林地					○				・広場周囲の低木植栽 ・道路沿いの樹林地の維持保全 ・庭園の高度な維持管理の継続 ・法面植栽の整理 ・樹林地の整理
				○						○	
						○		○			
				○							
Z3 メインストリート周辺		A03-1 交流棟北側空地 A03-2 メインストリート沿い A03-3 読書館 A03-4 共通教育棟中庭 A03-5 サイバーメディア北側樹林地 A03-6 言語文化研究科北側樹林地			○		○				・中山池水面と一体になった広場の整備(23年度4月完了予定) ・通路部分の広場化 ・駐輪場の整理 ・園後緑地樹木の整理 ・通路広場と一体になった再整備 ・既存樹を活かした修景 ・広場と一体になった緑地の再整備 ・広場と通路が一体になった緑地再整備 ・メインストリート整備と一体になった改善整備 ・歩道の維持保全 ・歩道沿い(建物前面)の緑地の整理 ・歩道空間と一体になった緑地の構成
							○	○			○
							○				
				○			○				
				○							
Z4 正門通り		A04-1 正面通り沿い A04-2 待兼池周囲の緑地									
				○	○		○				
Z5 福利系		A05-1 道路沿いの緑地 A06-1 文系中通り沿い A06-2 文系通り沿い A06-3 文系周辺									
Z7 基礎工・理学部		A07-1 基礎工・理学部周辺 A07-2 ワークセンター横緑地						○			
Z8 らふおれ・大高の森周辺		A08-1 らふおれ東側法面 A08-2 大高の森 A08-3 待兼池西側樹林地 A08-4 らふおれ周辺				○					
				○							
				○		○					
Z9 柴原口周辺		A09-1 柴原口樹林地		○				○		○	
Z10 待兼山周辺		A10-1 職員宿舍周辺 A10-2 博物館周辺 A10-3 待兼山									
						○					
				○		○					
Z11 中山池周辺		A11-1 中山池周辺 A12-1 西側外周樹林地 A13-1 刀根山・極限科学周辺 A13-2 待兼山学生会館周辺		○	○	○					
				○		○			○		
				○		○					
Z14 実践センター周辺		A14-1 実践センター周辺 A15-1 体育館西側樹林地 A15-2 グランド北側樹林地 A15-3 グランド周辺		○		○					
				○							
Z16 国際交流会館周辺		A16-1 国際交流会館周辺				○				○	

SI~S14: シンボル樹を表す。今後の維持保全や周囲の環境整備によりシンボル樹と成り得るものを含む。
G1~G7: 樹林地を表す



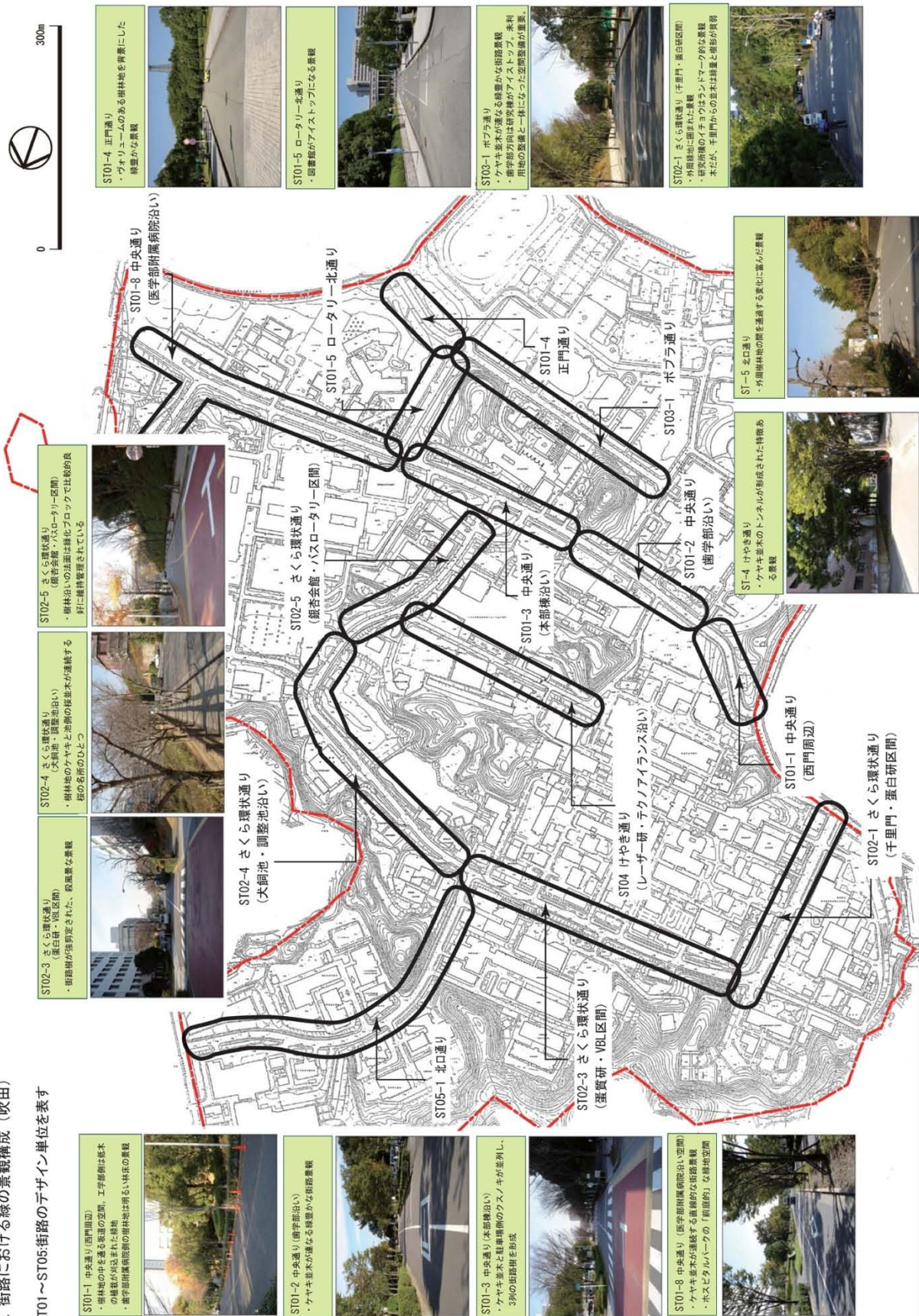
2-2-2. 緑の景観ポイント（吹田）

豊中キャンパスと同様に、視点場と眺望の方向を整理する。街路樹や水面越しの風景が、吹田キャンパスの「代表的な景観」となっている。



2-2-3. 街路における緑の景観構成 (吹田)

ST01～ST05街路のデザイン単位を表す



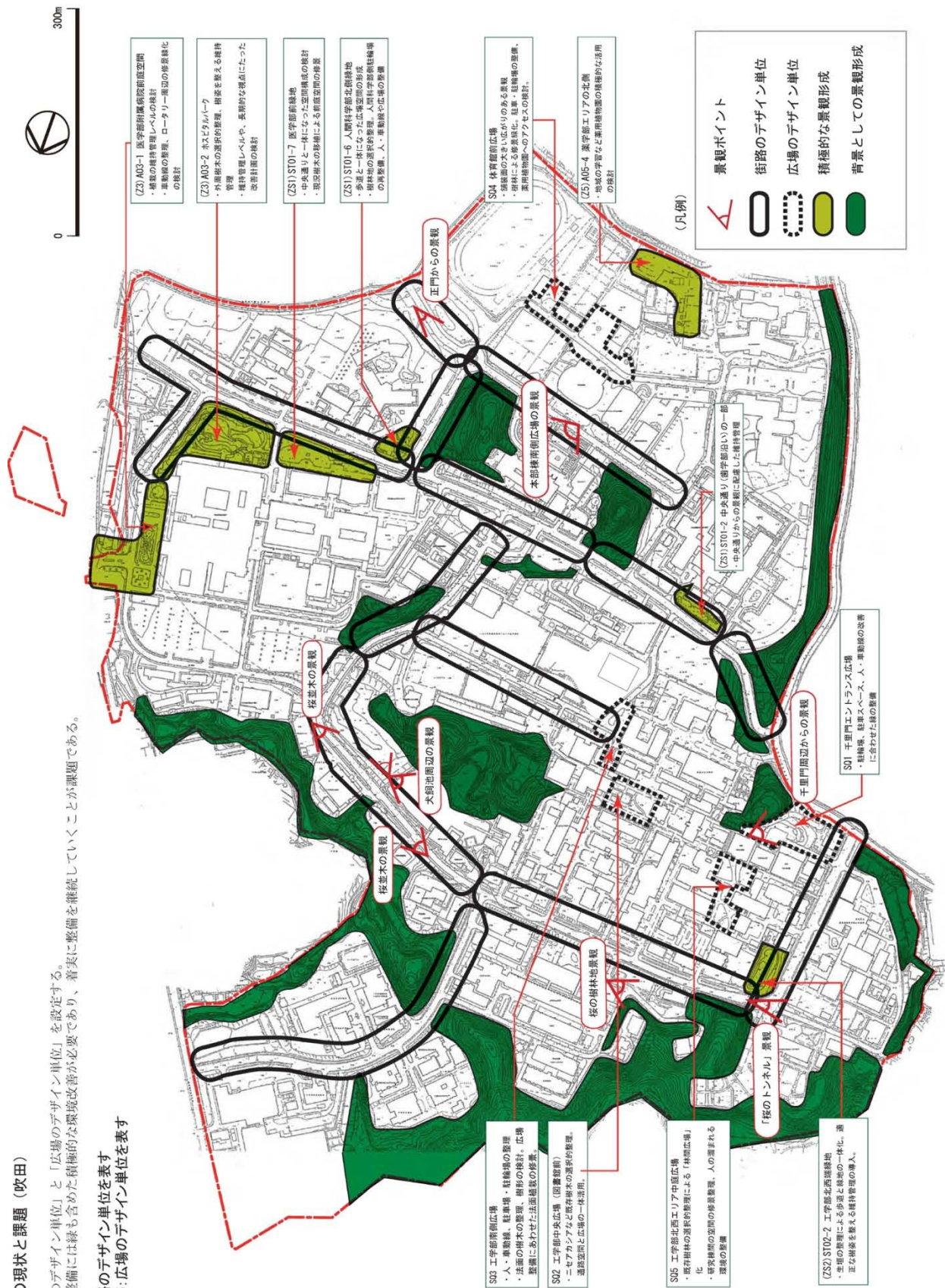
□ : 街路のデザイン単位

*ST01-1, ST1系列の番号は「維持管理と整備の方針」におけるエリア分けの番号に対応

2-2-4. 緑の現状と課題（吹田）

「街路のデザイン単位」と「広場のデザイン単位」を設定する。
広場の整備には緑も含めた積極的な環境改善が必要であり、着実に整備を継続していくことが課題である。

ST:街路のデザイン単位を表す
SQ1~5:広場のデザイン単位を表す



* A01-1: A系列の番号は「維持管理と整備の方針」におけるエリア分けの番号に対応

◆ 緑の現状と課題一覧表（吹田）

吹田キャンパスの空間骨格は街路網を主体に形成されているため、エリア分けも街路の構造を反映させた分割を行った。街路に沿ったエリア分けを「街路系」と呼び、街区や樹林地など面的なひろがりに対応したエリア分けを「街区系」と呼び、二つの図面に分けて整理・検討することとした。

- (注) 低木・草地
草地を主体とし、①草地、
②草地と低木の組み合わせ、
③草地と灌木の組み合わせのいずれかに相当する緑地を指す。

＜街路系＞

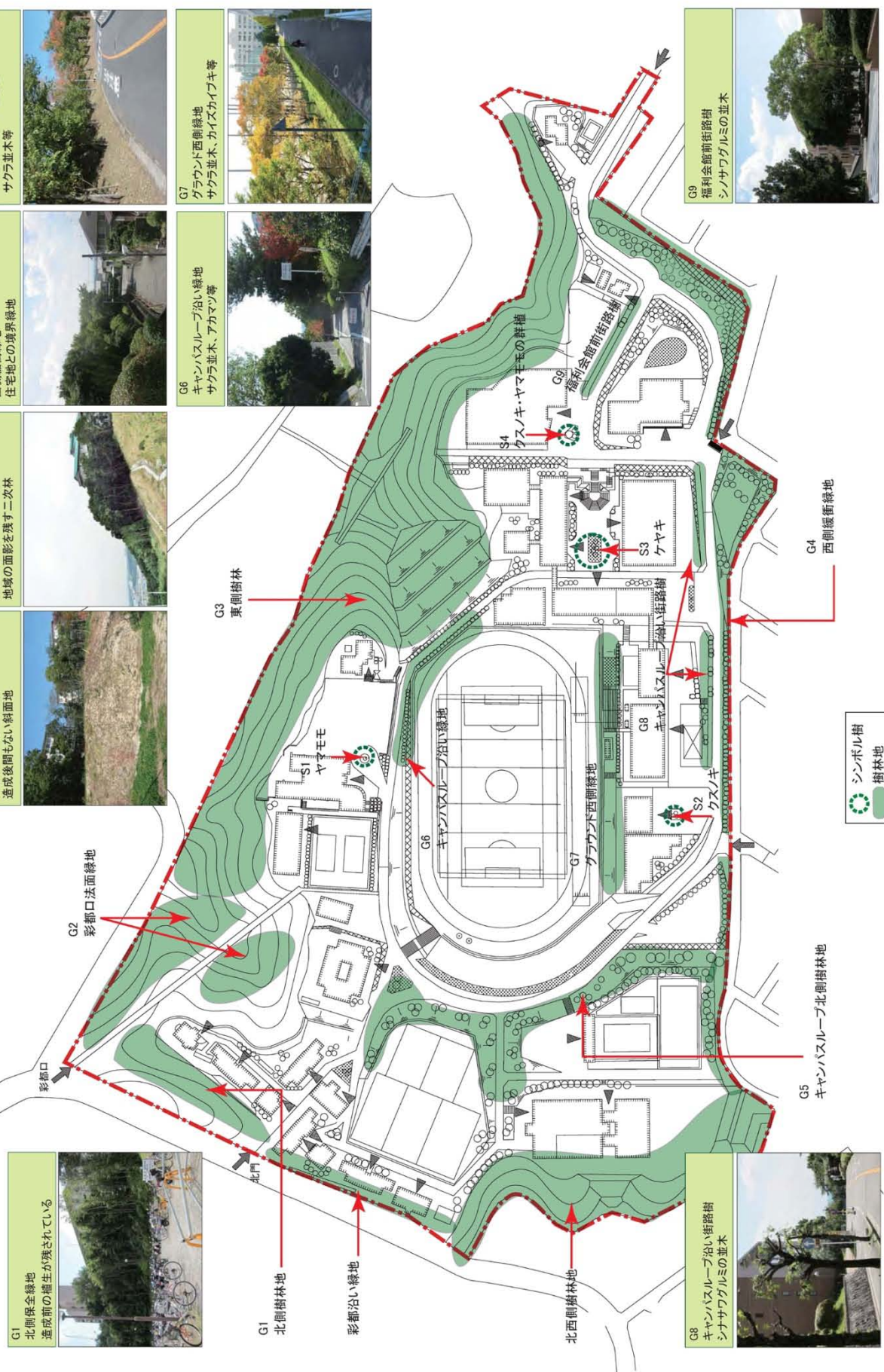
ゾーン	エリア	緑の構成要素										現状・課題 ※：課題を指す
		樹林	水面	法面	広場	緑地	種周辺	歩路	道路	駐輪	駐車	
Z5-1 正門・中央通り系	ST01-1 西門周辺	○						○	○			キャンパスの中核エリア
	ST01-2 医学部北					○		○	○			キャンパスの中核エリア
	ST01-3 本部棟北	○						○	○			キャンパスの中核エリア
	ST01-4 正門通り					○				○		キャンパスの中核エリア
	ST01-5 ローリー北											キャンパスの中核エリア
Z5-2 さくら環状通り	ST01-6 人間科学部北				○	○	○	○	○			キャンパスの中核エリア
	ST01-7 医学部南					○	○	○	○			キャンパスの中核エリア
	ST01-8 生命科学部											キャンパスの中核エリア
	ST02-1 千重門・東門											キャンパスの中核エリア
	ST02-2 工学部北											キャンパスの中核エリア
Z5-3 ボア通り	ST02-3 東白旗・VBL											キャンパスの中核エリア
	ST02-4 大動脈・調整池		○									キャンパスの中核エリア
	ST02-5 根子会館・バス	○										キャンパスの中核エリア
	ST03-1 ボア通り											キャンパスの中核エリア
	ST03-2 衛生部・東											キャンパスの中核エリア
Z5-4 サウス通り	ST04-1 ローリー・東											キャンパスの中核エリア
Z5-5 北口通り	ST05-1 原子力・植物											キャンパスの中核エリア

＜街区系＞

ゾーン	エリア	緑の構成要素										現状・課題 ※：課題を指す
		樹林	水面	法面	広場	低木 草地 (注)	種周辺	歩路	道路	駐輪	駐車	
Z1 本部棟周辺ゾーン	A01-1 本部棟北側空間 (バスローリー、 駐車場、福利施設)				○	○	○	○	○		○	キャンパスの中核エリア
	A01-2 本部棟南側広場				○	○	○	○	○			キャンパスの中核エリア
	A01-3 東側樹林地	○										キャンパスの中核エリア
	A01-4 西側樹林地	○										キャンパスの中核エリア
	A01-5 本部棟法面			○								キャンパスの中核エリア
	M02-1 千重門の周辺	○			○	○	○					キャンパスの中核エリア
	M02-2 中央広場				○	○	○			○		キャンパスの中核エリア
	M02-3 図書館前緑地				○	○	○	○	○			キャンパスの中核エリア
	M02-4 化学・材料系		○			○	○	○	○			キャンパスの中核エリア
	M02-5 建築系広場				○	○	○	○	○			キャンパスの中核エリア
Z2 工学系ゾーン	M02-6 中通り沿い				○	○	○	○	○	○	○	キャンパスの中核エリア
	M02-7 千重門側樹林地	○										キャンパスの中核エリア
	M02-8 テラリア・ア	○										キャンパスの中核エリア
	M02-9 大動脈側樹林地	○						○				キャンパスの中核エリア
	M02-10 化学・材料系							○	○	○	○	キャンパスの中核エリア
	M02-11 福利施設系							○	○	○	○	キャンパスの中核エリア
	M02-12 電気・応用系							○	○	○	○	キャンパスの中核エリア
	M02-13 機械・建設系							○	○	○	○	キャンパスの中核エリア
	M02-14 レーザー研	○						○	○	○	○	キャンパスの中核エリア
	M03-1 西門周辺				○	○	○		○			キャンパスの中核エリア
Z3 医学系ゾーン	M03-2 ホスピタル・					○	○					キャンパスの中核エリア
	M03-3 医学部									○		キャンパスの中核エリア
	M03-4 病院・駐車場								○			キャンパスの中核エリア
	M04-1 人間科学部									○	○	キャンパスの中核エリア
	M05-1 西側外周樹林地	○										キャンパスの中核エリア
Z5 衛生部・東学部ゾーン	M05-2 衛生部					○	○		○	○	○	キャンパスの中核エリア
	M05-3 保健学科											キャンパスの中核エリア
	M05-4 薬学部											キャンパスの中核エリア
	M06-1 広場・駐車場							○	○	○	○	キャンパスの中核エリア
	M06-2 スポーツ施設											キャンパスの中核エリア
Z6 環状通りゾーン	M07-1 北西側外周樹林地	○										キャンパスの中核エリア
	M07-2 緑研周辺									○	○	キャンパスの中核エリア
	M07-3 東白旗周辺									○	○	キャンパスの中核エリア
	M07-4 薬研周辺	○								○	○	キャンパスの中核エリア
	M07-5 原子力系	○								○	○	キャンパスの中核エリア
Z7 研究所ゾーン	M07-6 さくら環状通り	○										キャンパスの中核エリア
	M07-7 調整池周辺											キャンパスの中核エリア
	M08-1 調整池周辺											キャンパスの中核エリア
	M08-2 駐車場周辺											キャンパスの中核エリア
	M09-1 情報科学研究科											キャンパスの中核エリア

2-3-1. 樹木・樹林地の構成（真面）

S1～S4:シンボル樹を表す
G1～G9:樹林地を表す



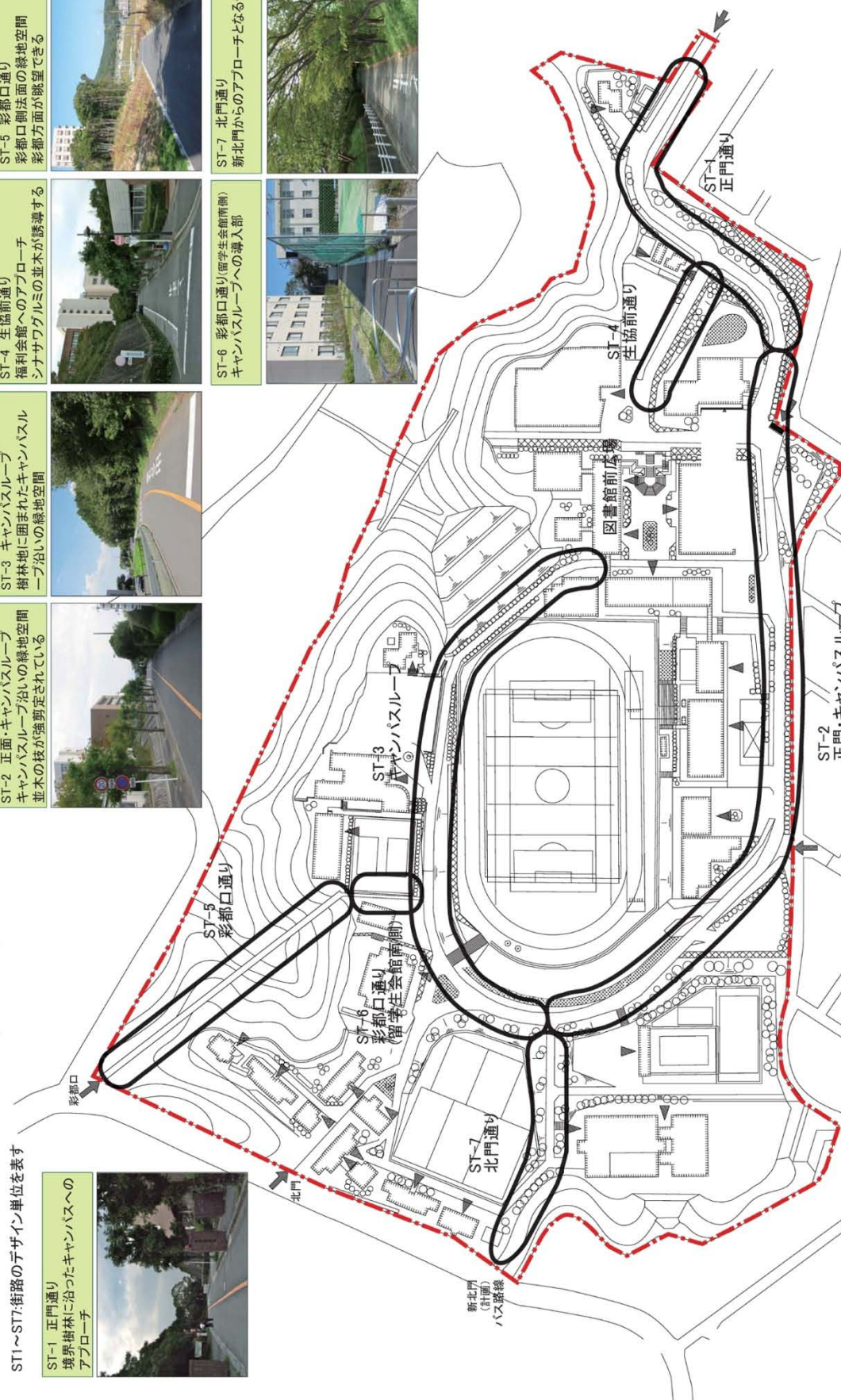
視点場と眺望の方向を整理する。南方向への見おろしや、箕面山系を背景とした景観などが箕面キャンパスの「代表的な景観」となっている。



2-3-3. 街路における緑の景観構成（真面）

街路のデザイン単位を整理する。
キャンパスループに沿った緑の編成が真面キャンパスの特徴となっている。

ST1～ST7街路のデザイン単位を表す



〇：街路のデザイン単位

◆ 緑の現状と課題一覧表（真面）

箕面キャンパスは傾斜地に位置しており、ひな壇造成で生じた擁壁により空間が細分化されている。これに応じて、ゾーンとエリアの分割も他キャンパスに比べて細かく設定することとした。

(注) 低木・草地
草地を主体とし、①草地、
②草地と低木の組み合わせ、
③草地と灌木の組み合わせのいずれかに相当する緑地を指す。

ゾーン	エリア	緑の構成要素							現状・課題	*：課題を指す
		樹林	水面	法面	広場	植床 (注)	通路	道路	駐輪	駐車
201 キャンパス外周	A01-1 東側樹林地	○								・現況保全林の維持
	A01-2 彩都口法面緑地			○						・法面における苗木植栽
	A01-3 彩都口法面緑地									・空間地の活用
	A01-4 北側樹林地	○			○					・現況保全林の維持
	A01-5 北西側樹林地	○								・現況保全林の維持
	A01-6 西側緩衝緑地					○		○		・キャンパスエッジを形成する緑地 ・隣接する住宅地との緩衝緑地
	A01-7 西側緩衝緑地					○		○		・キャンパスエッジを形成する緑地 ・隣接する住宅地との緩衝緑地
	A01-8 南西口擁壁緑地	○								・新築留保地の緑地 ・南西口擁壁のフタバガシ等の樹林地
	A01-9 西側緩衝緑地					○		○		・隣接する住宅地との緩衝緑地 ・キャンパスエッジを形成する緑地 ・箕面キャンパスの象徴的緑地、サクラ並木の景観 ・箕面キャンパスの象徴的緑地、サクラ並木の景観
202 テニスコート・体育館	A02-1 キャンパスループ北側樹林地			○		○		○		・緑のエッジを形成する緑地 ・箕面キャンパスの象徴的緑地、サクラ並木の景観
	A02-2 キャンパスループ北側樹林地			○		○		○		・緑のエッジを形成する緑地 ・箕面キャンパスの象徴的緑地、サクラ並木の景観
	A02-3 彩都沿い緑地									・A02-1、A02-2と一体となって緑のエッジを形成する緑地
	A02-4 北門通り沿い緑地	○				○				・ユリノキの苗木の維持
	A02-5 体育館周辺緑地					○		○		・建物周辺の緑地 ・A03-1緑地と一体になった景観の形成
	A02-6 体育館西側緑地				○			○		・アーチエリー横、ゴルフ練習場等施設周囲の緑地
	A02-7 体育館北側緑地				○			○		・弓道場として利用されている
	A03-1 北側駐車場周辺緑地							○		・A02-1、A02-2、A02-3と一体になって緑のエッジを形成 ・駐車場緑化
	A03-2 グラウンド西側緑地			○		○				・A02-1、A02-2、A02-3と一体になって緑のエッジを形成 ・ハリアフナー化
203 グラウンド周辺	A03-3 D棟東側緑地						○			・建物周辺の緑地 ・A03-2緑地と一体になった整備の検討
	A03-4 キャンパスループ東側緑地									・日本書日本文化教育センター側はコンクリート壁面が目立つ ・グラウンド側はアカマツ、シラカシ等が繁茂し景観が悪い
	A03-5 キャンパスループ東側緑地				○					・サクラ並木の景観の維持
	A04-1 キャンパスループ西側樹林地						○			・造剪定されたシナサグルムの街路樹
	A04-2 西側駐車場周辺緑地			○		○			○	・法面植栽がよく管理されている
	A04-3 D棟西側緑地					○			○	・建物周辺の緑地 ・樹林の植栽密度や位置等を勘案した植栽の整理
	A04-4 E棟周辺緑地						○	○		・建物周辺の緑地 ・自主した樹木や高木密度になった植栽が目立つ
	A05-1 キャンパスループ南側緑地						○			・造剪定されたシナサグルムの街路樹
	A05-2 福利会館前街路樹						○			・造剪定されたシナサグルムの街路樹
204 研究棟周辺	A05-3 福利会館前緑地				○					・広場空間と一体になった緑地 ・ロータリーの樹林における高木密度な植栽構成
	A05-4 図書館前広場				○					・広場空間と一体になった緑地 ・比較的高密度な管理が行われている
	A05-5 図書館周辺緑地					○				・建物周辺の緑地 ・密度の高い植栽空間
	A05-6 福利会館東側緑地			○		○				・建物周辺の緑地 ・管理サ―ビススペースを囲む緑地。(緑の濃い緑地の維持)
	A05-7 管理棟周辺緑地					○				・建物周辺の緑地 ・園地を取り囲む緑地、南側の設置を阻害
	A05-8 管理棟南側緑地				○					・人の利用が少ない園地 ・記念樹等の整理
	A06-1 彩都口通路緑地				○		○	○		・留学生会館2号館沿いの地蔵樹の維持
	A06-2 日本語日本文化教育センター周辺緑地					○	○	○		・建物周辺の緑地
	A07-1 彩都沿い緑地					○		○		・彩都側用地と一体化になった整備
205 研究棟・交流施設周辺	A07-2 北門周辺緑地				○					・専門的な景観の改善 ・常道を利用者の限定的利用
	A07-3 書道舎周辺緑地						○			・建物周辺の緑地 ・男子部沿いのカイズカイズキが大きい成長(整理の検討)
	A07-4 書道舎周辺緑地					○	○	○		・建物周辺の緑地 ・高木密度部分の整理の検討
	A08-1 宿泊施設周辺緑地	○				○	○	○	○	・建物周辺の緑地

緑の構成要素、現状・課題										現状・課題	*：課題を指す
樹林	水面	法面	広場	低木 草地 (注)	植床辺	通路	道路	駐輪	駐車		
○		○								・現況保全林の維持	
			○							・空間地における苗木植栽	
○										・空間地の活用	
○										・現況保全林の維持	
				○						・現況保全林の維持	
				○						・キャンパスエッジを形成する緑地 ・隣接する住宅地との緩衝緑地	
				○						・キャンパスエッジを形成する緑地 ・隣接する住宅地との緩衝緑地	
○										・新築留保地の緑地 ・南西口擁壁のフタバガシ等の樹林地	
				○						・隣接する住宅地との緩衝緑地 ・キャンパスエッジを形成する緑地 ・箕面キャンパスの象徴的緑地、サクラ並木の景観	
				○						・A02-1、A02-2と一体となって緑のエッジを形成する緑地	
○				○						・ユリノキの苗木の維持	
					○					・建物周辺の緑地 ・A03-1緑地と一体になった景観の形成	
			○		○					・アーチエリー横、ゴルフ練習場等施設周囲の緑地	
			○		○					・弓道場として利用されている	
		○								・A02-1、A02-2、A02-3と一体になって緑のエッジを形成 ・駐車場の緑化	
					○					・建物周辺の緑地 ・A03-2緑地と一体になった整備の検討	
										・日本語日本文化教育センター側はコンクリート壁面が目立つ ・グラウンド側はアカマツ、シラカシ等が繁茂し景観が悪い	
			○							・サクラ並木の景観の維持	
					○					・造剪定されたシナサグルムの街路樹	
		○			○				○	・法面植栽がよく管理されている	
					○				○	・建物周辺の緑地 ・樹林の植栽密度や位置等を勘案した植栽の整理	
						○				・建物周辺の緑地 ・自主した樹木や高木密度になった植栽が目立つ	
						○				・造剪定されたシナサグルムの街路樹	
						○				・造剪定されたシナサグルムの街路樹	
			○							・広場空間と一体になった緑地 ・ロータリーの樹林における高木密度な植栽構成	
			○							・広場空間と一体になった緑地 ・比較的高密度な管理が行われている	
					○					・建物周辺の緑地 ・密度の高い植栽空間	
		○			○					・建物周辺の緑地 ・管理サービススペースを囲む緑地。(緑の濃い緑地の維持)	
					○					・建物周辺の緑地 ・園地を取り囲む緑地、南側の眺望を阻害	
						○				・人の利用が少ない園地 ・記念樹等の整理	
				○						・留学生会館2号館沿いの地蔵樹の維持	
				○	○	○				・建物周辺の緑地	
				○	○					・彩都側用地と一体化になった整備	
			○		○					・専門的な景観の改善 ・常道を利用者の限定的利用	
						○				・建物周辺の緑地 ・男子部沿いのカイズカイズキが大きく成長(整理の検討)	
				○	○	○				・建物周辺の緑地 ・高木密度部分の整理の検討	
○				○	○	○				・建物周辺の緑地	

3-3-1. 具体的な維持管理レベルの設定

限られた予算の中でバランスの取れた緑の維持管理を進めるため、エリアごとに3段階の管理レベルを定義し、積極的に維持管理をするべきところから、基礎的な維持管理に抑えるところまで、緑地の性格付けと、大まかな樹種やサイズに応じた、管理レベルを設定する。

この、広場系、街路系、庭園系、樹林系などの緑地の性格付けによる分類定義を、表3-2.に示す。また、常緑・落葉など大まかな樹木タイプやサイズの分類定義を表3-3.に示す。

管理レベルは、大きく、広場系・街路系・庭園系と(表3-4.)と、樹林・境界系(表3-5.)にわけて、剪定、施肥、病虫害駆除、除草・清掃の頻度の組み合わせによりレベルを定義した。

共に、管理レベル3はキャンパスの重要な景観を維持するための水準であり、管理レベル2は通常の景観を維持するための「適度な」水準と考え、管理レベル1は、最小限の管理により緑を維持する水準とする。

表3-2. 緑地の性格付けに示した定義

広場系緑地	広場等として一体的に管理される緑地。
街路系緑地	街路と一体的に管理される緑地
庭園系緑地	待兼山庭園等の庭園的な緑地。広場的利用よりも観賞に重きを置いた緑地。
樹林・境界系緑地	樹林地等の保全を主にする緑地

表3-3. 樹木形状の分類

大高大木	幹周り 120cm以上
大高木	幹周り 60cm以上～120cm未満
高木	幹周り 60cm未満または樹高3m以上
大中木	樹高2m以上3m未満
中木	樹高1m以上2m未満
低木	樹高1m未満
生垣	
芝草	

表3-4. 緑地の植栽管理レベル (広場系・街路系・庭園系)

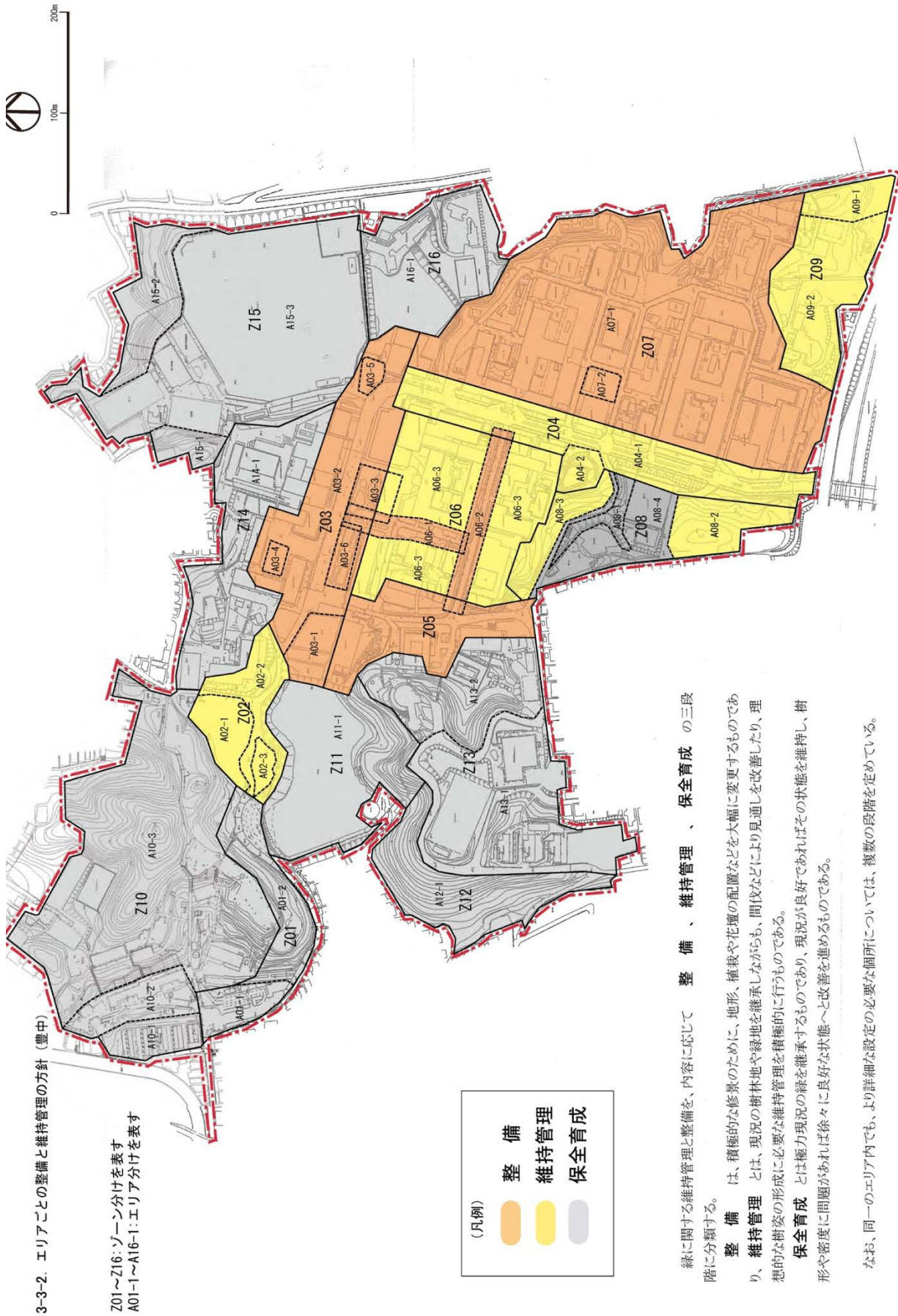
管理レベル	管理方法	常緑樹			落葉樹			針葉樹				大中木	中木	低木	生垣	芝草	備考
		大木 高木	大高木	高木	大木 高木	大高木	高木	大木 高木	大高木	高木							
レベル3 キャンパスを 代表する 景観を維持 するのに 必要な管理 水準	剪定	—	—	年1回 10月	—	—	年1回 12月	—	—	年1回 春先	年1回 夏期	年1回 冬期	年2回 2月・11月	年3回 6・8・12月	—	花木類は 花落后	
		年1回冬期		—	年1回夏期		—	年1回夏期		—	年2回 8月・12月	年3回 春先					
	施肥	—	—	年1回 2月	—	—	年1回 2月	—	—	年1回 2月	—	—	—	—	—	年3回 5～10月	
		—	—	年3回 6月・8月 ・2月	—	—	年3回 6月・8月 ・2月	—	—	年3回 6月・8月 ・2月	—	—	年2回 6月・8月				
	病虫害防除	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	適宜		
	除草・清掃	除草: 年4回 5～10月 清掃: 適宜															

表3-5. 緑地の植栽管理レベル (樹林・境界系)

管理レベル	管理方法	樹林	竹林	草地	備考
レベル3 人の利用が想定される保全系の緑地	剪定	2～3年に1回	年1回	—	—
	倒木処理 下草刈り	2～3年に1回	年1回	—	—
レベル2 人の利用する空間に隣接し、林床等の景観が重要な緑地	ツル切り・清掃	年1回	年1回	年2回	—
	剪定	4～5年に1回	2～3年に1回	—	—
レベル1 キャンパスの背景等、遠景的な景観要素となる緑地	倒木処理 下草刈り	2～3年に1回	2～3年に1回	—	—
	ツル切り・清掃	年1回	年1回	年1回	—
その他	剪定	2～3年に1回	2～3年に1回	年1回	—
	倒木処理 下草刈り	7～10年に1回	4～5年に1回	—	—
その他	ツル切り・清掃	7～10年に1回	4～5年に1回	—	—
	剪定	2～3年に1回	2～3年に1回	2年に1回	—
その他	ツル切り・清掃	4～5年に1回	4～5年に1回	4～5年に1回	—
	剪定	4～5年に1回	4～5年に1回	4～5年に1回	—

※目視検査を年1回実施

※大高大木・大高木は3ヶ月に1回の日視検査を実施。

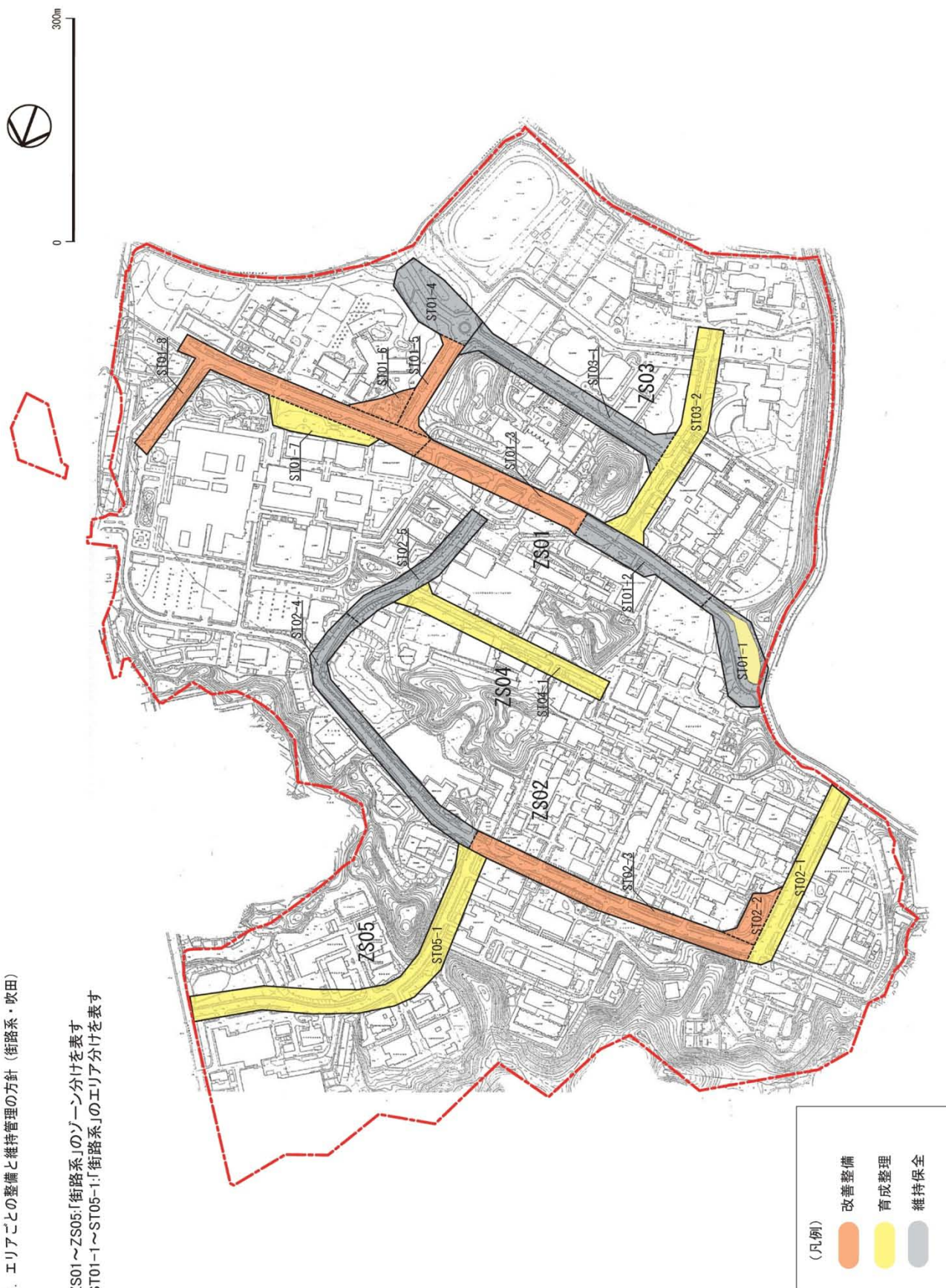


3-3-3. エリアごとの整備と維持管理の方針一覧表（豊中）

維持管理の方針と管理レベル																			
ゾーン	エリア	維持管理の方針			管理レベル														
		維持保全	育成整理	改善整備	維持管理のポイント			広場系			街路系			庭園系			樹林・境界系		
					1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
Z1 阪大坂	A01-1	エントランス広場	○	○	・ 現況の整備水準の維持 ・ 緑地の創出														
	A01-2	阪大坂沿い	○	○	・ 現況の整備水準の維持 ・ 緑地の創出														
	A02-1	待兼山庭園	○	○	・ 現況の整備水準の維持 ・ 法面植栽の整理と維持管理 ・ 高木樹の剪定・整姿 ・ 樹林地林床部の整理														
Z2 待兼山庭園・大阪大学会館周辺	A02-2	大阪大学会館周辺			・ 現況樹林（ケヤキ）の移植														
	A02-3	中山池周辺樹林地			・ 現況樹林の選択的整理														
	A03-1	交流棟北側空地			・ 現況樹林の選択的整理 ・ 段階的な樹木整理														○
Z3 メインストリート周辺	A03-2	メインストリート沿い	○	○	・ 現況樹林の選択的整理														
	A03-3	浪高庭園	○	○	・ 現況樹林の選択的整理														
	A03-4	共通教養棟中庭	○	○	・ 現況樹林の選択的整理														
Z4 メインストリート周辺	A03-5	サイバーメディア北側樹林地	○	○	・ 林床部の整理と樹木の整姿														
	A03-6	言語文化研究科北側樹林地	○	○	・ 空間整備に合わせた樹木の選択的整理														○
	A04-1	正面通り沿い	○	○	・ 街路樹並木（イチョウ）の育成管理 ・ 道路景観に配慮した維持管理														
Z5 正門通り	A04-2	待兼山庭園の緑地	○	○	・ 緑地部分の維持管理の適性化														
	A05-1	道路沿いの緑地	○	○	・ 空間整備に合わせた樹木の選択的整理														
	A06-1	文系中通り沿い	○	○	・ 空間整備に合わせた樹木の選択的整理														
Z6 文系	A06-2	文系通り沿い	○	○	・ 空間整備に合わせた樹木の選択的整理														
	A06-3	文系周辺	○	○	・ 維持管理を考えた樹木の選択的整理														
	A07-1	基礎工・理学部周辺	○	○	・ 維持管理を考えた樹木の選択的整理														○
Z7 基礎工・理学部	A07-2	工作センター横緑地		○	・ 空間整備に合わせた樹木の選択的整理														
	A08-1	らふおれ東側法面	○	○	・ 法面植栽の修景整理														
	A08-2	大高の森	○		・ 林床の整理														
Z8 らふおれ・大高の森周辺	A08-3	待兼山西側樹林地	○	○	・ 林床の整理														○
	A08-4	らふおれ周辺		○	・ 法面植栽の修景整理														○
	Z9 紫原口周辺	A09-1	紫原口樹林地	○	○	・ 樹林地林床部の整理													○
Z10 待兼山周辺	A10-1	職員待合室周辺		○	・ 空間整備に合わせた樹木の選択的整理														○
	A10-2	博物館周辺	○	○	・ 林床の整理														○
	A10-3	待兼山	○		・ 現況樹林の管理水準の改善														○
Z11 中山池周辺	A11-1	中山池周辺	○		・ 現況樹林の管理水準の改善														○
	Z12 西側外周樹林地	A12-1	西側外周樹林地	○	○	・ 現況樹林の管理水準の改善													○
	Z13 福利・居住系	A13-1	刀根山寮・極楽科学部周辺	○	○	・ 現況樹林の管理水準の改善													○
Z14 実践センター周辺	A13-2	待兼山会館周辺	○		・ 林床の整理・現況樹林の管理水準の改善														○
	A14-1	実践センター周辺	○	○	・ 空間整備に合わせた樹木の選択的整理 ・ 現況樹林の管理水準の改善														○
	A15-1	体育館西側樹林地	○		・ 現況樹林の管理水準の改善														○
Z15 グラント周辺	A15-2	グラント北側樹林地	○		・ 現況樹林の管理水準の改善														○
	A15-3	グラント周辺	○	○	・ 現況樹林の管理水準の改善														○
	Z16 国際交流会館周辺	A16-1	国際交流会館周辺	○	○	・ 空間整備に合わせた樹木の選択的整理・林床の整理 ・ 緑地部分の維持管理の適性化													○

3-3-4. エリアごとの整備と維持管理の方針（街路系・吹田）

ZS01～ZS05:「街路系」のゾーン分けを表す
ST01-1～ST05-1:「街路系」のエリア分けを表す



(凡例)

改善	育成	維持
----	----	----

Map labels include: Z01, Z02, Z03, Z04, Z05, Z06, Z07, Z08, Z09; A01-1, A01-2, A01-3, A01-4, A01-5; A02-1, A02-2, A02-3, A02-4, A02-5, A02-6, A02-7, A02-8, A02-9, A02-10, A02-11, A02-12, A02-13, A02-14; A03-1, A03-2, A03-3, A03-4; A04-1; A05-1, A05-2, A05-3, A05-4; A06-1, A06-2; A07-1, A07-2, A07-3, A07-4, A07-5; A08-1, A08-2. Other labels include '菜園' (Vegetable Garden) and '植物園' (Botanical Garden).

◆ エリアごとの整備と維持管理の方針一覧表（吹田）

＜街区系＞

維持管理の方針と管理レベル

ゾーン	エリア	維持管理の方針					管理レベル											
		維持 保全	育成 整備	改善 整備	維持管理のポイント	広域系	管理レベル											
							1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
Z01 本部南側エリアゾーン	A01-1 本部南側広場 (バスロータリー、 駐車場、福利施設)		○	○	・バスロータリー、駐車場を含む広域空間の再整備 ・現況の道路、舗装を合わせた整備の検討 ・福利施設周辺の再整備			○	○									
	A01-2 本部南側広場		○		・現況の整備水準の維持			○										
	A01-3 東側樹林地		○		・沿道沿いの樹林地の維持管理											○		
	A01-4 西側樹林地		○		・竹林、林床部の整理												○	
	A01-5 本部南側広場		○		・現況の整備水準の維持													
Z02 工学系ゾーン	A02-1 千重門の周辺		○	○	・再整備計画との整合 ・広域内樹木の選択的整理 ・駐車場の再整備の検討					○								
	A02-2 中央広場		○	○	・取付樹木の選択的整理と道路沿い空間との一体的整備			○	○									
	A02-3 図書館前緑地		○	○	・取付樹木の選択的整理と広域化 ・駐車場の再整備と緑地の整備			○	○									
	A02-4 化学・材料系広場		○	○	・現況樹木を活かしたエントランス広域空間の再整備			○	○									
	A02-5 建設系広場		○	○	・現況のケヤキ並木と緑の育成管理 ・駐車場沿い部分の修繕緑化 ・テニスコート前樹木の広域化			○	○									
	A02-6 中通り沿い		○	○	・現況のケヤキ並木と緑の育成管理 ・駐車場沿い部分の修繕緑化 ・テニスコート前樹木の広域化			○	○									
	A02-7 千重門後緑地		○	○	・移転部分の育成管理			○	○									
	A02-8 テニスコート前		○	○	・現況の整備水準の維持			○	○									
	A02-9 大前池前樹林地		○	○	・散策利用と林床の管理													○
	A02-10 化学・材料系		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理			○	○									
Z03 工学系ゾーン	A03-1 東門周辺		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理			○	○									
	A03-2 バスビル前		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理			○	○									
	A03-3 医学部		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理			○	○									
	A03-4 南院、駐車場		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A04-1 人間科学部ゾーン		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A05-1 西側外周樹林地		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A05-2 理学部		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A05-3 保健学科		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A05-4 薬学部		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A06-1 広域・駐車場		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
Z04 工学系ゾーン	A07-1 北西側外周樹林地		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A07-2 東門周辺		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A07-3 東門周辺		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A07-4 東門周辺		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A07-5 東門周辺		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A07-6 さくら通り沿い		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A08-1 東門周辺		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A08-2 東門周辺		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A09-1 情報科学研究科		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									
	A09-2 情報科学研究科		○	○	・現況樹木の選択的整理と駐輪、駐車場の整理 ・工学部グラウンドの修繕緑化の検討 ・レーザ研・研一研エリアの樹林地は本部員を含む樹林地として重要			○	○									

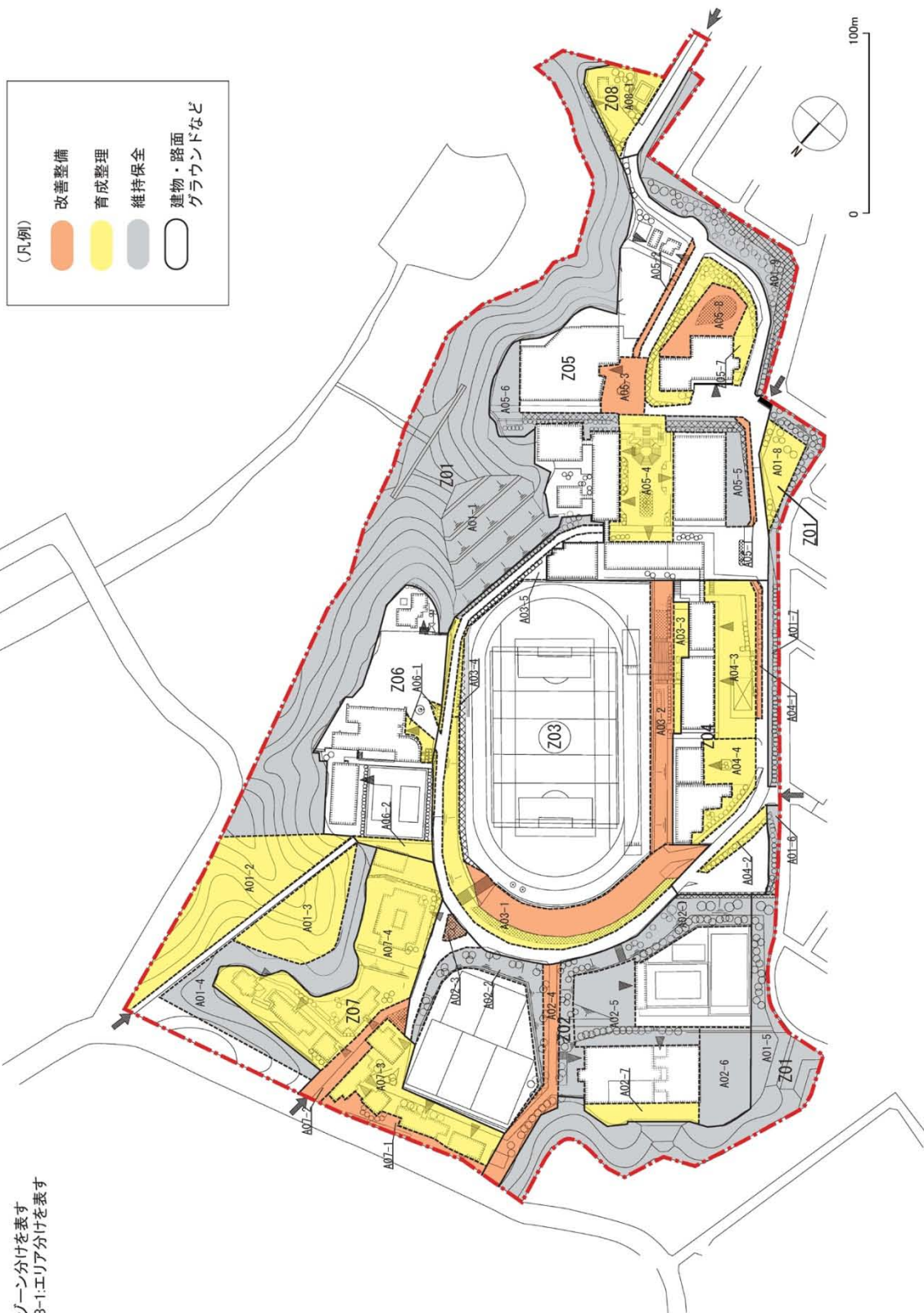
＜街路系＞

維持管理の方針と管理レベル

ゾーン	エリア	維持管理の方針					管理レベル											
		維持 保全	育成 整備	改善 整備	維持管理のポイント	広域系	管理レベル											
							1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
ZS01 正門、中央通り系	ST01-1 西門周辺		○	○	・西門周辺の樹木の維持管理 ・西門周辺の樹木の維持管理 ・西門周辺の樹木の維持管理													
	ST01-2 医学部沿い		○	○	・医学部沿いの樹木の維持管理 ・医学部沿いの樹木の維持管理 ・医学部沿いの樹木の維持管理													
	ST01-3 本部棟沿い		○	○	・本部棟沿いの樹木の維持管理 ・本部棟沿いの樹木の維持管理 ・本部棟沿いの樹木の維持管理													
	ST01-4 正門通り		○	○	・正門通りの樹木の維持管理 ・正門通りの樹木の維持管理 ・正門通りの樹木の維持管理													
	ST01-5 ロータリー		○	○	・ロータリーの樹木の維持管理 ・ロータリーの樹木の維持管理 ・ロータリーの樹木の維持管理													
	ST01-6 人間科学部北側緑地		○	○	・人間科学部北側緑地の樹木の維持管理 ・人間科学部北側緑地の樹木の維持管理 ・人間科学部北側緑地の樹木の維持管理													
	ST01-7 医学部南側		○	○	・医学部南側の樹木の維持管理 ・医学部南側の樹木の維持管理 ・医学部南側の樹木の維持管理													
	ST01-8 生命科学部、 セノーラエリア		○	○	・生命科学部、セノーラエリアの樹木の維持管理 ・生命科学部、セノーラエリアの樹木の維持管理 ・生命科学部、セノーラエリアの樹木の維持管理													
	ST02-1 千重門、東門周辺		○	○	・千重門、東門周辺の樹木の維持管理 ・千重門、東門周辺の樹木の維持管理 ・千重門、東門周辺の樹木の維持管理													
	ST02-2 工学部西側緑地		○	○	・工学部西側緑地の樹木の維持管理 ・工学部西側緑地の樹木の維持管理 ・工学部西側緑地の樹木の維持管理													
ZS02 さくら通り系	ST02-3 東門研・VBL区間		○	○	・東門研、VBL区間の樹木の維持管理 ・東門研、VBL区間の樹木の維持管理 ・東門研、VBL区間の樹木の維持管理													
	ST02-4 大前池、調理学部沿い		○	○	・大前池、調理学部沿いの樹木の維持管理 ・大前池、調理学部沿いの樹木の維持管理 ・大前池、調理学部沿いの樹木の維持管理													
	ST02-5 調理学部、 バスロータリー区間		○	○	・調理学部、バスロータリー区間の樹木の維持管理 ・調理学部、バスロータリー区間の樹木の維持管理 ・調理学部、バスロータリー区間の樹木の維持管理													
	ST03-1 ボプラ通り		○	○	・ボプラ通りの樹木の維持管理 ・ボプラ通りの樹木の維持管理 ・ボプラ通りの樹木の維持管理													
	ST03-2 東門研、東門周辺		○	○	・東門研、東門周辺の樹木の維持管理 ・東門研、東門周辺の樹木の維持管理 ・東門研、東門周辺の樹木の維持管理													
	ST04-1 レーザ研・ テニスコート前		○	○	・レーザ研、テニスコート前の樹木の維持管理 ・レーザ研、テニスコート前の樹木の維持管理 ・レーザ研、テニスコート前の樹木の維持管理													
	ST05-1 原子力・核物理区間		○	○	・原子力・核物理区間の樹木の維持管理 ・原子力・核物理区間の樹木の維持管理 ・原子力・核物理区間の樹木の維持管理													
	ST05-2 原子力・核物理区間		○	○	・原子力・核物理区間の樹木の維持管理 ・原子力・核物理区間の樹木の維持管理 ・原子力・核物理区間の樹木の維持管理													
	ST05-3 原子力・核物理区間		○	○	・原子力・核物理区間の樹木の維持管理 ・原子力・核物理区間の樹木の維持管理 ・原子力・核物理区間の樹木の維持管理													
	ST05-4 原子力・核物理区間		○	○	・原子力・核物理区間の樹木の維持管理 ・原子力・核物理区間の樹木の維持管理 ・原子力・核物理区間の樹木の維持管理													

3-3-6. エリアごとの整備と維持管理の方針（真面）

Z01～Z08：ゾーン分けを表す
A01-1～A08-1：エリア分けを表す



維持管理の方針、管理レベル

[illegible]